

創立40周年記念誌

40年の歩み



関東厨房機器協同組合

創立40周年記念誌

(平成12年)

40年の歩み



関東厨房機器協同組合



挨拶する上野理事長（平成12年5月24日 於：ホテルニューオータニ）

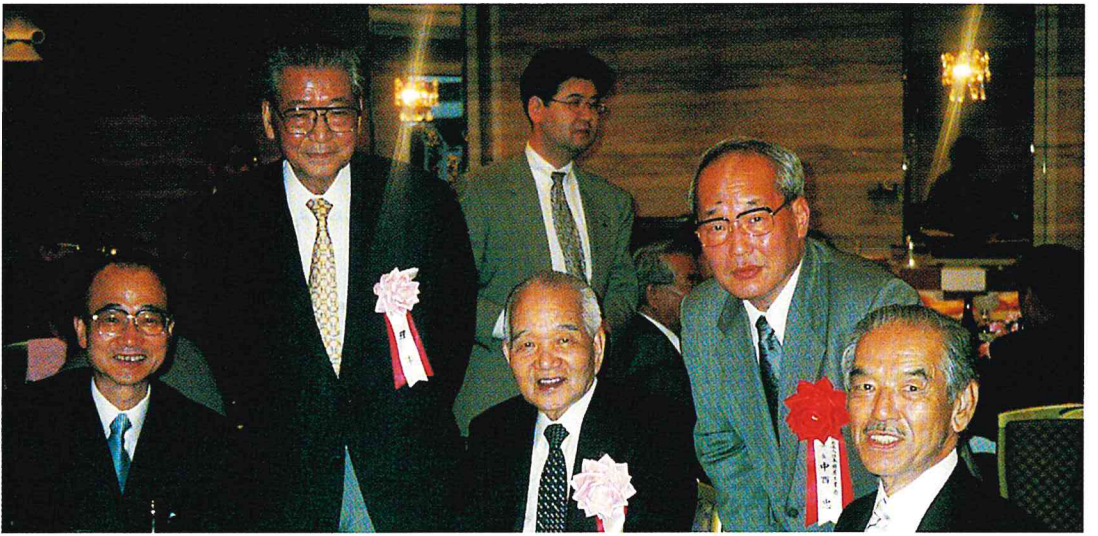


商工中金 東京支店長から感謝状を受ける理事長

来賓の方々



関東厨房機器協同組合 創立40周年祝賀会





理事長挨拶	2
祝 辞	
* 経済産業省関東経済産業局長	4
* 東京都中小企業団体中央会会長	5
* 東京ガス株式会社取締役	6
* 商工中金理事長	7
* 社団法人 日本厨房工業会会長	8
* 近畿厨房機器協同組合理事長	9
* 東海調理機器協同組合理事長	10
組合の概要	11
年史で見る組合の歩み	
I 昭和35年～平成2年	13
II 平成3年～平成12年	20
40周年記念座談会《組合創立40周年を振り返って》	33
随 想	51
役員紹介	
* 現職役員	52
* 歴代役員の変遷	55
組合運営の歩み	
* 組合員一覧	58
* 設立委員会の変遷	59
* 委員会委員就任状況	60
* 常設委員会委員就任状況	61
組合事業の歩み	
* 組合員数	64
* 組合出資金	65
* 共同購入取扱実績（商品）	66
* 共同購入取扱実績（工作機械・自動車）	67
* 共同受注取扱実績	68
* 共済制度・保険制度取扱実績	69
* 事業資金貸付取扱実績	71
各種表彰記録	72
最近の厨房業界概要	73
編集後記	86

ご挨拶

関東厨房機器協同組合
理事長 上野 一雄

今日は、当組合創立40周年式典を開催しましたところ、関東通産局殿をはじめ、関係諸団体、また組合員および賛助会員多数のご臨席を賜り、心から感謝申し上げる次第でございます。

厚く、厚くお礼申し上げます。

当組合が、組合員32名、出資金96万円によって創立されたのは、昭和35年でありました。顧みますれば、昭和35年は、所得倍増計画の「池田内閣」が誕生し、日本経済が戦後の回復期を脱して、高度成長期に足を踏み入れようとした年でもありました。その後、20年、30年、そして今日40年と、無事に記念式典を挙げて頂き、現在、組合員65名、賛助会員9名、出資金2500万円となっておりますが、私は、組合設立に名をつらねた一人として、組合の更なる発展を願うとき、この40年を振り返り、創立当時のことを少し申し述べさせていただきます。

組合は、昭和35年に出来ましたけれども、その少し前の昭和31年に、業界の親睦と情報連絡を目的とした「厨房設備協和会」という組織が生まれました。しかし、業界の社会的地位の向上と会員の福利増進のためには、どうしても公式機関としての組合を作らなければならないとの考えから、初代理事長の木村秀吉氏をはじめとして10人位の方々が、発起人となり組合創立を業界に呼びかけ、昭和35年11月発足となったわけでありました。

当時のご承知のように厨房という企業は、まだまだ社会的には認められておりませんでしたし、組合を創っても、組織運営には不慣れでございました。当時、親身になってご指導、ご支援頂いたのが、本日ご臨席頂いております関東通産産業局殿の前身であります東京通産産業局殿、並びに東京都中小企業団体中央会殿でございます。お蔭様で、初期の段階に組合事業は軌道に乗ることができました。

組合が手がけた、最初の共同事業は、厨房機器の材料でありますステンレスの共同購入でした。その仕入資金としてご援助頂いたのが、先程、表彰をして下さいました商工中金殿でございます。東京支店さんには、昭和36年2月からお世話を頂いております。

当時は、まだ、組合事務所はございませんで、木村理事長の会社社宅の一室を借りておりました。間借生活は2年程続きましたが、組合事務所を持たなければ、組合は発展しないということになり、「厨房機器会館」を建設するよう計画した訳でございます。組合員全員からは更に40万円ずつの増資をお願いし、また、他の企業へも業界加入を呼びかけ、さらに商工中金殿のご援助を得て、昭和39年、オリンピックの年に、現在の港区東麻布に待望の厨房機器会館が竣工致しました。

東京ガス株式会社殿との最初のお付き合いは、首都圏のガスカロリーアップによるガス器具仕様変更の動きがあった昭和37年2月頃と記憶しております。その後、お付き合いを重ね、昭和53年3月に共同受注の最初の事業でありました「仙石原保養所」の厨房設備を施工させて頂きました。

思えば、長くもあり、あっという間の40年でもありました。困難な創業期を克服した後、幾多の紆余曲折を経て、平成2年10月の30周年には、優良組合として、関東通商産業局長殿より表彰を受け、また、昨年11月には中小企業庁長官から表彰される組合にまでなりましたことは、誠に喜ばしいことと思うとともに、全国的に最大規模の中核組合として業界をリードする一方、組合員相互の団結により、業界および企業の健全な発展に努め、その社会的地位の向上に、少しは貢献できたものと自負しております。私どもはこの評価に甘んじる事なく、更にこれからの繁栄と進展に努力しなければならないと思っております。

昨年末の臨時国会では、36年ぶりに中小企業基本法が改正されました。

従来法律は、中小企業を、大企業とは格差のあるいわば「弱者」と捉え、その政策も、企業間における生産性等の格差を是正するため、企業保護の立場から、立案・施行されておりましたが、改正法では、これを改め、多様で活力ある中小企業こそが、わが国経済の発展と活力の源泉であると考え、政策も、経営革新等「自助努力」をする中小企業への支援をその中核とし、加えて創業の促進、ベンチャー企業振興のための支援も柱の一つとしました。

中小企業に係る基本理念が変更されたわけでありませぬ。

組合も、「経営資源の相互補完」という視点を重視する組織として位置付けられました。今までのように、いわゆる経済的弱者の集まりという考え方から、個々の組合員企業がより強くなるための、そして、お互いが経営革新していくための集まりという考え方に変わらなくてはなりません。

昨今の中小企業を取り巻く情勢をみても、その経営環境は、なお、依然として厳しく、景気が上向いているという実感がないのが実情であります。私達は、新たな時代へ、共に積極的に適応していかなければなりません。今日、変化のスピードはますます加速しており、そうした変化に対応して経営革新に取り組んでいかなければ、時代の潮流に取り残されかねません。自らに問いかけ、常に「革新」の意識を持ち続けていくことが大切だと考えます。

厳しい時代は続きますが、このような変革の時代だからこそ、我々中小企業はなお一層の企業家精神と創造性・機動性・柔軟性を発揮し、かかる状況を突破していこうではありませんか。

組合、そして業界の発展は、本日ご臨席頂いた皆様を含め、関連する方々のご指導、ご協力がなければなしえないものと考えます。私ども組合は、ご意見やご要望をよくお聞きしながら、組合員のみならず、そして業界の発展に寄与できるよう努力を続けてまいりますので、重ねて、ご支援・ご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様がたの、今後のご多幸とご発展をお祈り申し上げて、ご挨拶と致します。

本日は、誠に有難うございました。

祝 辞

経 済 産 業 省
関東経済産業局長 高橋 晴樹

関東厨房機器協同組合が創立40周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴組合は昭和35年に設立以来40年の永きにわたり強固な組織と団結を維持しつつ、共同受注事業をはじめ、共同購買事業、共同宣伝広告事業、金融事業、教育情報事業等、数多くの事業を通じ、業界最大規模の中核組合として常に業界をリードし、組織の拡大及び充実に努める一方、組合員相互の協力により、経営の安定と経済的地位の向上に努められ、業界の社会的地位の向上に多大な貢献をしてこられました。さらに共同受注では業界唯一の官公需適格組合の認定を受けられ、東京都、港区等の公共給食施設の受注を手掛けるなど、組合の組織運営が永年にわたり適切かつ良好な組合と認められ、平成2年度には私ども関東通商産業局長表彰、昨年11月には中小企業庁長官表彰も受けられた管内屈指の優良組合であります。これもひとえに、理事長はじめ、役職員の方々並びに組合員の皆様方が中小企業等協同組合法の趣旨を十分に理解され、組合の育成、発展に努められたたまものと深く敬意を表する次第であります。今後とも一段とご努力を重ねられ、業界の発展のためにご尽力下さるようお願いしてやみません。

さて、平成13年1月6日から通商産業省は経済産業省に再編され、従来の産業中心の政策から、経済全体を視野に入れ世界をリードする経済産業政策へと拡充することとなり、当局も関東経済産業局として新たにスタートいたしました。

私ども関東経済産業局におきましても、地域経済産業政策の実施担当部局として、地域産業、消費者等のニーズの的確な把握と施策への反映、地域経済の自立的・内発的・多様な発展を視野に入れたバイオベンチャー・情報ベンチャーの育成支援、新規産業創出の総合的支援体制の整備等、世界に通用する地域産業・企業の発展を目指した戦略的プロジェクトの推進等を念頭において鋭意取り組んでまいります。

昨今の中小企業を取り巻く環境は大変厳しいものがありますが、中小企業が今後とも健全な発展を遂げていくためには、持ち前の機動力と創造力を十二分に発揮しつつ、新たな環境変化に適切に対処していくことが、従来にもまして必要になってきており、当局におきましても、引続き、中小企業の連携、組織化、活性化、組合の情報化等の支援を行ってまいります。厨房機器産業は、今日の食生活が多様化、高度化する中で欠かすことの出来ない産業分野であり、かつ、ゆとりと豊かさを求める国民生活文化の向上のために大きく貢献することが期待されております。貴組合におかれましても、創立40周年を契機に、一段と団結を強められ、一層活躍していかれることを期待するものであります。

最後に、貴組合のご発展並びに組合員の皆様方の益々のご健康とご活躍をこころよりお祈り申し上げます。

東京都中小企業団体中央会
会長 菅谷 頼道

関東厨房機器協同組合が創立40周年を迎え、このように盛会裏のうちに記念式典が開催されますことを心からお喜び申し上げます。また本日、表彰の栄誉によくされた皆様には改めてお祝いを申し上げますとともに、今後とも健康に留意され、それぞれの企業、ならびに組合発展のため、ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

顧みますと、貴組合は、昭和35年11月に業界の地位向上のため、厨房設備の設計施工、厨房機器の製造卸売を行なう事業者の方々によって設立されました。爾来、長年にわたり中小企業と協同組合の基本理念に基づき、固い団結のもと幾多の難局を乗り越え、現在では共同購買、共同受注をはじめ各種の事業を展開され、組合員の経営健全化と発展のために寄与されていることは、他の組合の範とするところであります。これも一重に上野理事長をはじめとする歴代理事長の先見性と卓越した指導力、役員の方々への組合運営に対する情熱と責任感、そして組合員の皆様のご理解とご協力の賜物であり、深く敬意を表します。

さて、わが国経済社会は、国民の価値観やライフスタイルの変化、少子高齢化の進展等を背景に、経済のグローバル化、IT革命といわれる情報技術の急速な進展等々、大きく変化してまいりました。このような変化の中に、昨年12月には中小企業基本法が改正され、中小企業政策の基本理念が、従来の二重構造論を前提とした企業間格差の是正から、やる気のある企業を育て支援していくことへと変更されました。

これを受けて、今後の組合のあり方も従来のスケールメリットの追及のみならず、中小企業の経営資源の相互補完機能を重視する方向へと位置付けられてまいりました。受注売上の伸び悩みによる採算の悪化、また資金繰りに苦しむ状況等から、中小企業の経営環境は厳しい情勢下に現在も置かれております。このような個別企業の限界を超えた、従来にない厳しい競争を勝ち抜いていくためにも、機動性、柔軟性、創造性を持った組織の力は重要なものであります。

貴組合は40年という長い歴史の中で、多くの難局に直面しながら、団結力と先達のご努力で乗り切り、今日の繁栄を築いてこられました。今後とも、上野理事長のもと皆様の英知を結集し、一層団結を強め、組合ならびに組合員企業発展のためご尽力いただきたいと存じます。本会と致しましても、協同組合等の育成と振興・発展を推進する支援団体の一つとして、従来以上に努力をしまる所存であります。

結びに、この記念すべき40周年を契機とし、来る21世紀を貴組合と組合員の皆様が限りなくご発展されますようご祈念申し上げまして、祝辞と致します。

祝 辞

東京ガス株式会社
取締役エネルギー営業本部長 横内 稔

このたび関東厨房協同組合が40周年を迎えられましたことに対して、衷心よりお祝い申し上げます。貴組合が設立以来、厳しい市場環境のなかで厨房業界並びに関連業界発展のために、組合員各位の固い結束のもと、今日まで多大な業績を挙げてこられたことに深甚なる敬意を表します。またガス機器の開発普及を通じ、常々絶大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、わが国の景気はわずかながら回復の兆しが見えてきたものの、依然として低迷しておりますが、21世紀のエネルギー業界は、電力・ガスの小売り分野の自由化をはじめとする規制緩和が着実に進展し、電力・都市ガス事業者による相互参入、国内異業種および海外メジャーズの電力・ガス市場への参入が具体化するなど、エネルギー大競争時代に突入いたしました。

一方、地球温暖化、オゾン層の破壊、砂漠化、酸性雨による森林の破壊など地球規模での環境破壊をくい止め「継続的發展が可能な社会システム」を構築していくことが、今日の世界的課題になっております。とりわけエネルギー多消費国である我が国の果たすべき責任は誠に重大であり、我が国経済社会の持続的な発展のため、各企業が環境問題にどう取り組んでいくかが厳しく問われています。

21世紀を迎えたこの期にあたり、私どもの企業姿勢を訴えるためのスローガンを「エネルギー・フロンティア～天然ガスがひらく未来」といたしました。これは、時代と社会の要請に応え、これからのエネルギー市場を積極的に切り拓いていくという当社の姿勢と決意を示しているものです。

私どもは、首都圏のお客様に対し、クリーンエネルギー・天然ガス(都市ガス)を安定的・効率的かつ安全にお使いいただくという公益事業としての基本的責務を果たすため、原料の長期安定確保と保安の確保に万全を期しております。LNG(液化天然ガス)は、昭和44年に我が国で初めてアラスカから導入いたしました。その後ブルネイ、オーストラリア、マレーシア等、政治状況の異なる太平洋圏の国々から導入を図り、我が国のエネルギー政策である脱石油、脱中東を積極的に推進しております。

また、安全で快適な生活をご提供する観点から、ガス機器の開発に関しましても、一層の充実を図るため、省エネルギー化、熱効率の向上、機能性・設置性の改善等を鋭意行ってまいります。特に厨房分野に関しましては、貴業界とお互いの英知と創意を出し合い、外食・中食・セントラルキッチン等あらゆる食の業態に、適切に対応させていただきたいと考えております。

我が国の経済情勢は、継続的低迷期のなかにあります。このような時期にこそ貴業界も私どもも将来にわたり大きく飛躍するため、従来にも増して緊密な連携を維持して参ることが肝要であると確信しております。

終わりにあたり、40周年を迎えられました貴組合が、今後ますますご繁栄され関東地区における経済社会の発展に大きく寄与されることを念願し、また貴組合と組合員各社の一層の発展を祈念いたしまして、私の祝辞といたします。

祝 辞

商 工 中 金
理事長 兎玉 幸治

この度、関東厨房機器協同組合が創立40周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。顧みますと、貴組合は昭和35年11月、共同事業などを目的に組合員32名の方々により設立され、以来、昭和39年の厨房機器会館建設を初め共同購入の推進、金融事業の拡充等、業界の中核として積極的な活動を展開され、今日では組合員65社を擁するまでに成長されてこられました。

これもひとえに、上野理事長はじめ歴代組合役職員ならびに組合員の皆様方のご努力とご熱意によるものと、深く敬意を表する次第であります。

また、貴組合と私ども商工中金とのお取引は、昭和36年2月以来、厨房機器会館建設資金のご融資に始まり、貴組合事業のご発展とともに拡大を重ね、当金庫の有力なお取引先として緊密なお取引をいただいているところであります。ここに平素のご愛顧とご支援に対し改めて厚くお礼申し上げます。

さて、わが国経済は、メガ・コンペティションやIT革命の進展、雇用の流動化、少子・高齢化の進行といった歴史的な構造変化の過程にあり、21世紀における確固たる成長軌道を歩んでいくための、極めて重要な段階にあるといえます。

また、中小企業については、新しい政策体系の下でわが国経済のダイナミズムの源泉として位置付けられ、多様で活力のある成長が強く期待されており、各種の支援措置・制度整備も進んでいることから、柔軟性・創造性・機動性を有する中小企業にとって、更なる成長へのチャンスが一段と拡大しております。

新しい世紀を迎え、組合員の皆様方が企業の発展を通して「わが国経済の活力の維持・強化」に貢献されるとともに、組合員相互の団結を強化し、貴組合が今後ますますご発展されることを期待いたしております。

私ども商工中金は、政府系の協同組織金融機関として、金融面はもとより中小企業のよきパートナーとして、企業経営の全般に亘り、皆様方のお役に立てるよう更なる努力を続けてまいりますので、何卒、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、関東厨房機器協同組合の益々のご発展と組合員皆様方のご繁栄を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

社団法人 日本厨房工業会
会長 中西 忠

この度、関東厨房機器協同組合様が創立40周年を迎えられましたことを、衷心よりお祝い申し上げます。

顧みますと、貴協同組合は昭和35年5月に、東京都、埼玉、神奈川、千葉、群馬、茨城、栃木の一都六県を重要活動区域とし、業務用厨房機器の製造、販売、設備、設計施工業を営むものを中心に、組合員相互扶助の精神に基づき、共同事業や経済活動を通じて同業者の質向上を図りつつ、地域経済の発展に寄与することを目的として設立されました。設立は、32社の賛同企業によりその活動を着手されたと伺っております。

この間、貴組合はその設立目的に沿って事業を推進され、設立当初は、特に物資供給がままならない時代により、共同購入事業の一環として、ステンレス原材料の共同購入、事業資金のあっせん等を盛んに推進されました。これら事業の推進と併せて、昭和38年5月に、組合員の発展と融和親睦、自主的経済活動の基盤、または拠点を構築するため、厨房機器会館の建設に着手、翌年3月に竣工されました。このほか、昭和41年から45年の向上期には資金の長期貸付制度を策定し、組合員に対する事業資金の転貸、厨房機器の価格表やカタログの作成により、仕入関係組合員に対する便宜供与、事業化の普及啓蒙活動等を展開されました。さらに貴組合の事業活動は、設立期、向上期それぞれの変革を経ながら今日の成熟期へと発展、移行されております。

これら諸事業の推進にあたり、これまで7代にわたり理事長の交替があり、各理事長がそれぞれの時代に即応した適切な判断と的確な指導のもと、役員をはじめ組合員相互の協力により数々の事業が展開されて、今日の隆盛に至ったのであります。この間、経済情勢は激しく浮沈の変動が繰り返されており、これまで苦楽を共にされた組合員一同により、設立40周年を迎えられましたことは、感慨ひとしおであると拝察いたします。

特に上野理事長におかれましては、今さら申し上げるまでもなく、関東厨房機器協同組合ならびに社団法人日本厨房工業会の設立当時から、これまで常にトップ指導者として数々の功績を残され、まさに両組織の生みの親的存在であり、高まいで模範的先輩指導者であると尊敬の念とともに、誇りに存じております。上野理事長には、今後とも貴協同組合のみならず、業界のさらなる発展にお導きくださいますよう本席をもってお願い申し上げます。

これからの時代は、供給者サイドの観点から需要者サイドのニーズに沿った対応が予想されます。これら時代に鑑み、組合員の一致結束はもとより、業界を挙げて対処しなければならないものと存じます。

現在、社団法人日本厨房工業会においては、今年の秋には第1回日本厨房設備機器大展示会の開催し、また、食文化の向上と社会福祉の増進に寄与するため、厨房設備機器における安全や衛生を中心とした標準化を当年度内において策定することを目的に、各種会議を通じて真剣に取り組んでいるところであります。

当工業会における各種事業の推進や策定については、貴組合員各位のご理解とご協力が肝要であると存じます。どうか、業界相互の発展に寄与、貢献するため、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、貴組合並びに組合員各位の益々のご繁栄を心から祈念いたし、お祝いの言葉といたします。

近畿厨房機器協同組合 理事長 千田 禎一

関東厨房機器協同組合の皆様、創立40周年、誠におめでとうございます。40年の間には様々な困難がおありになったことと思います。それらを乗り越えられてきた組合員の方々の情熱とご努力に深く敬意を表す次第です。

さて、私ども厨房業界はいろんな問題に直面しております。その一例を取り上げてみたいと思います。

日本経済では戦後初めての「デフレ」宣言が出され、先行き不透明感は深く、バブル崩壊以降の「失われた時代」への対応能力を失っているように見えます。何に軸足を置きどこへ向かうのかその活路を求めると、20才で入社したとして業界へ入っても、組合40年の歴史をプラスすると人間としては還暦です。そこで事業の継承という観点から業界を考えてみたいと思います。

環太平洋諸国で軒並み相続税が廃止される中で日本だけが世界最高の税率を維持、日本の相続税の最高税率は70%、先進国で突出しています。日本の相続税収入は(平成12年)約2兆円、全企業の99.7%を占める中小企業者が相続税によって次世代への事業の継承を妨げられ、やる気が奪われています。日本が閉塞感に覆われているひとつの理由は相続税にあります。

応分の社会責任を果たすことは厭わないですが、経営者が保有する自社株相続は未公開株だから取引相場もなく、類似の上場会社の株価を参考に時価評価したり、一株当たりの純資産額を算出して課税されます。地価や収益性が高いほど評価額も跳ね上がります。売ることもできぬ自社株相続のため、銀行借入れや土地などの事業用資産の売却で資金を捻り出したりでなければ延納するケースが相次いでいます。

そもそも、遺産相続は雇用やのれんの維持といった責任、先人の英知等もひっくり返して継承するものです。次世代に資産を残したという人間の本能を刺激することによって、社会の活力と企業家精神を高めることではないでしょうか。

21世紀の新世紀に事業が継承され、そこに新しいグローバル化社会の中で何を為すべきか、インターネット、電子商取引の活性化、情報化、リサイクル法、国際会計基準、キャッシュフロー、ISO9000・ISO14000対策など問題は山積みです。厨房業界自体の活性化をしていく時であると感じます。

環境変化に適合できる企業体質作りを、不安の時代にこそ自助努力を、平成不況、物欲減退不況、世の中の変化を的確に捉えれば不況であっても会社は伸びます。

末筆ながら、貴組合ならびに組合員の皆様方の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

祝 辞

東海調理機器協同組合
理事長 清水 健治

関東厨房機器協同組合には、このたびめでたく創立40周年を迎えられ、記念誌を発行され、その輝かしい足跡をしるされますことは誠に意義深く、衷心よりお祝い申し上げます。

上野理事長様をはじめ理事役員の方々並びに組合員の皆様には大変お喜びのことと推察致します。

設立当時は、池田内閣が国民所得の倍増計画論を提唱し、東京オリンピック開催に向け、東海道新幹線や高速道路の基幹産業の発展を推進し、各種インフラ整備、国民経済の高度成長を旨としての気運が産業界全体にあり、活気がみなぎっていた時期と記憶致します。

貴組合は昭和35年11月に設立以来、めまぐるしく変化する経済社会の中にあって、時代の要請に即した事業を積極的に推進され、多大の成果を挙げられると同時に、業界の指導者として、時代の推移を的確に把握され、適切な組合運営を図ってこられました。40年間の様々な紆余曲折を乗り越え、今日を迎えられたことは、歴代役員の皆様方のご尽力と組合員相互の固い結束の賜物であり、関東地区業界はもとより全国同業組合のリーダーとして、今日の厨房業界を発展的に導かれた関係各位のご努力に対して心からの敬意を表する次第であります。

30周年までは、日本の経済成長に伴い我が業界も、食文化の担い手として食生活向上の一助を担いに、共に組合員企業も繁栄する中で社会に対し多大な貢献をすることが出来ました。30周年以降この10年間は、バブル経済の崩壊により内外情勢も混迷をきわめる経済情勢が続き、現在は、デフレ経済が進行しております。かかる情勢の中では、業界における貴組合の役割は依然として大きく、今後ともリーダーシップを取っていただきます様お願い申し上げます。

当組合も、おかげをもちまして今年40周年を迎えることとなります。これもひとえに貴組合のご指導のおかげと感謝致しますと同時に、今後は当組合も組合員担互の友愛を大切にし資質の向上を計り、教育活動を基本に、組合業界の発展に精進を重ねて参る所存であります。

今後50周年に向けて貴組合の益々の発展と組合員各位のご繁栄を心より祈念致しまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

組合の概要

1. 名 称 関東厨房機器協同組合
2. 所 在 地 東京都港区東麻布1丁目27番8号
3. 当組合とは 昭和35年11月2日設立された、業務用厨房機器の設計、施工、製造、販売および修理業者の協同組合です。
4. 目 的 組合員の相互扶助の精神に基づき、組合員の為に必要な共同事業を行い、組合員の経済活動を促進し、かつその経済的地位の向上を図ることを目的とする。
5. 事 業 (1) 組合員の取扱う厨房機械器具、資材の共同販売、購買。
(2) 厨房設備工事の共同受注。
(3) 組合員に対する事業資金の貸付およびその借入。
(4) 組合員の事業に関する経営および技術の改善向上並びに組合事業に関する知識の普及を図る為の教育および情報の提供。
(5) 組合員の為にする保険の取扱い。
(6) その他
6. 組合員資格 (1) 厨房設備の設計施工、厨房機械器具・部品の製造、または卸売業者。
(2) 組合の地区内に事業場を有すること。
7. 組合の地区 東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県、群馬県。
8. 沿 革 昭和31年 2月18日 厨房設備協和会設立。
昭和35年11月 2日 協和会解散、組合設立
昭和35年11月13日 東京都中小企業団体中央会加入
昭和39年 3月 組合事務所（名称：厨房機器会館）建設
昭和53年 3月 官公需適格組合証明取得
昭和55年11月 東京都競争入札参加資格取得
昭和59年10月 港区競争入札参加資格取得
平成 2年10月 優良組合として関東通商産業局長から表彰
平成11年11月 優良組合として中小企業庁長官から表彰
9. 組合員数 65社 賛助会員数 9社
10. 出資総額 25,000,000円

組合の歴史 I (昭和35年～平成2年)

組合設立までの経緯

業務用厨房業で専門家が現れたのは、明治20～22年頃からといわれる。石炭や粉炭・重油を熱源としたストーブを製作していた鑄掛け屋・ブリキ屋が、外国製レンジを真似てその名も新しい「料理用石炭ストーブ」を製作するようになり、調理器類の国産化が始まった。昭和9年には、早くも「東京料理用ストーブ製造業組合」が設立され、その後「東京食品加工器同業組合」「調理器工業協会」なども結成されている。中には軍部からの資材調達を目的とした団体もあったらしいが、その後、「東京鉄鋼器具工業組合」(18年)「日本厨房改善協会」(27年)「学校給食設備協同組合」(30年)や、「日本家庭炊事用具協会」等が組織化された。

昭和31年2月18日、東京を中心として厨房業界の総合設備業者と専門機器製造業者の親睦と横の連絡機関として、当組合の前身である「厨房設備協和会」が20数社で結成された。当時、他の地域にも「関西厨房機器組合」「東海北陸厨房設計監理協会」等、現在の協同組合の前身母体が存在していたようである。同会は、名簿・会報の発行、営業社員の懇談会を行う等、親睦を目的とした団体ではあったが、他方、設立当初から、公的機関としての協同組合への移行を規約に謳い、会員の福利増進と業界の社会的地位の向上発展も目指していた。そこで、昭和33年3月15日に新橋駅舎2階の日本食堂で開催された定時総会で、当組合の設立発起人代表であり初代理事長ともなる木村秀吉氏より協同組合化への移行について発言があり、それを受けて、昭和35年5月21日の総会で「協同組合への移行」を満場一致で決定。同年8月19日に観光会館で創立総会を開催し、組合員32名、出資金96万円で、協同組合が設立された。同年10月27日東京通産局の認可を得て、11月2日設立登記を完了し、関東厨房機器協同組合は正式に公認団体としての第一歩をふみ出した。

組合設立に参加した人達

発起人代表	木村秀吉(木村)		
発起人	岩倉好松(三陽)	秋元時一郎(秋元)	熊谷俊男(富士)
	宮本留一郎(宮本)	谷武雄(千代田)	矢野四郎(第一)
同意者	馬場鋭之助(東郷)	五十里元秋(イカリ)	梅田勝徳(日調)
	細山礼吉(細山)	松崎平(松崎)	矢ヶ崎真吾(森井)
	尾崎新治(尾崎)	吉村謙三(吉村)	落合完二(八洲)
	袴田長吉(袴田)	上野一雄(上野)	椿藤次郎(椿)
	中村貴行(中村)	碓井達雄(福本)	村田幸吉(村幸)
	伊藤一郎(伊藤)	中谷宏(鷺尾)	今福冶俊(竹村)
	鈴木啓之(鈴木)	林田末喜(林田)	永井巳之助(永巳)
	徳増久五郎(徳久)	林金一郎(林)	佐藤仁助(佐藤)
	織内経緯(東泉)		

組合の歴史 I (昭和35年～平成2年)

年次	組合の動き	社会の動き
昭和35年度 (木村)	<p>5.21 厨房設備協和会総会 * 協同組合への移行・設立決定</p> <p>8.19 創立総会(丸の内・観光倶楽部) * 創立時に必要な12試案を議決 * 木村秀吉理事長、馬場鋭之助・熊谷俊男副理事長 他の役員を選任 * 出資金96万円 * 設立同意者32名全員出席(委任状4)</p> <p>10.14 東京通商産業局へ組合設立認可申請</p> <p>10.27 「東産認協第465号」で認可</p> <p>11. 2 組合設立登記完了</p> <p>11.14 東京都中小企業団体中央会へ加入</p> <p>36. 2. 6 東京都商工組合連合会へ加入</p>	<p>* 三井鉱山三池鉱業所無期限スト(1月)</p> <p>* 北炭夕張炭鉱ガス爆発(2月)</p> <p>* 浩宮徳仁(現皇太子)誕生(2月)</p> <p>* 安保反対ストの中、日米新安保条約発効(6月)</p> <p>* 岸内閣総辞職・池田内閣成立(7月)</p>
昭和36年度 (木村)	<p>5.12 第1回通常総会(虎ノ門共済会館：出席24名) * 役員改選：木村理事長、馬場・熊谷副理事長をはじめ全員留任 * 借入限度5千万円、貸付限度2百万円、加入金額5千万円等を前年通り可決</p> <p>10.30 関西厨房機器協会に物品税対策・工業会設立の協力要請文を送付</p> <p>37. 1.12 理事会(芝宮本)で、全国炊事用具協会を併合して、全国厨房機器工業連合会の組織強化等を協議</p>	<p>* ケネディ、米大統領就任(1月)</p> <p>* ソ連、初の人工衛星打上げ(4月)</p> <p>* 東独、ベルリン壁構築(8月)</p>
昭和37年度 (木村)	<p>5. 9 全国厨房機器工業会設立世語人会</p> <p>5.26 第2回通常総会(翠明館) * 加入金30万円等決議</p> <p>6.25 全国厨房機器工業会の創立総会を開催(虎ノ門共済会館)</p>	<p>* 米、初の人工衛星打上げ(2月)</p> <p>* 常磐線、三河島事故(5月)</p> <p>* 堀江謙一さん、ヨットで太平洋単独横断に成功(8月)</p> <p>* キューバ危機(10月)</p>
昭和38年度 (木村)	<p>5. 7 第3回通常総会(吉野旅館：出席47名) * 木村理事長、馬場・熊谷・岩倉副理事長、他の役員を選任 * 役員定員を13名以内から15名以内に定款変更</p> <p>5.13 厨房機器会館地鎮祭</p> <p>6. 2 木村氏を団長とする総勢16名の欧米視察団が、羽田から出発</p> <p>39. 3.17 厨房機器会館竣工</p>	<p>* ソ連世界初の女性宇宙飛行士を乗せた宇宙ロケット打上げに成功(6月)</p> <p>* ケネディ米大統領テキサス州ダラスで暗殺(11月)</p> <p>* 三井三池炭鉱爆発事故発生(11月)</p>

年次	組合の動き	社会の動き
昭和 39 年度 (木村)	<p>4.22 臨時総会 * 会館会議室の組合員初会合として臨時総会開催</p> <p>5.15 第4回通常総会(翠山荘：出席49名) * 事務局所在地定款変更</p> <p>11. 7 臨時総会(第一ホテル) * 第1回優良従業員表彰式(44名)</p>	<p>* 名神高速道路全線開通(9月)</p> <p>* 米宇宙ロケット月着陸に成功(10月)</p> <p>* 東京オリンピック開幕(10月)</p> <p>* 東海道新幹線営業開始(10月)</p>
昭和 40 年度 (木村)	<p>5.26 第5回通常総会(大和館：出席50名) * 役員改選：木村理事長、熊谷・岩倉・谷副理事長、他の役員を選任</p> <p>11. 2 臨時総会(翠山荘：出席52名) * 第2回優良従業員表彰式</p>	<p>* 東京オリンピック後の不況・山陽特殊鋼(株)倒産(戦後最大)(3月)</p> <p>* ベトナム戦争激化(6月)</p> <p>* 第1次佐藤改造内閣発足(6月)</p> <p>* 朝永振一郎氏、ノーベル賞物理学賞受賞(10月)</p> <p>* 中国・文化大革命始まる(11月)</p>
昭和 41 年度 (木村)	<p>5.25 第6回通常総会(熱海後楽園：出席44名)</p> <p>7.27 工業会の社団法人設立記念祝賀会開催(赤坂プリンスホテル)</p> <p>11. 8 臨時総会(赤尾ホテル：出席50名) * 組合員の増加に伴い、地区を神奈川まで拡大することを決議</p> <p>42. 1. 6 名刺交換会を工業会と共催で開催</p>	<p>* 全日空機東京湾墜落、カナダ航空機羽田着陸に失敗、英航空機富士山に衝突、計321名の死者を出す(2~3月)</p> <p>* 日本の人口、1億を越す(3月)</p> <p>* ザ・ビートルズ、日本で公演(6月)</p> <p>* 政府、成田空港を決定(7月)</p> <p>* 中国、紅衛兵旋風起る</p>
昭和 42 年度 (木村)	<p>4.20 岩倉好松副理事長逝去</p> <p>5.24 第7回通常総会(翠山荘：出席51名) * 役員改選：木村理事長、熊谷・谷副理事長他の役員を選任</p> <p>11. 8 臨時総会(翠山荘：出席58名)</p>	<p>* 美濃部氏都知事当選(4月)</p> <p>* モントリオール万国博開幕(4月)</p> <p>* 第3次中東戦争始まる(6月)</p>
昭和 43 年度 (木村)	<p>5.29 第8回通常総会(富士屋ホテル：出席50名)</p> <p>11. 7 臨時総会(さがみや：出席51名) * 第5回優良従業員表彰式(42名)</p>	<p>* ソ連軍チェコに侵入(8月)</p> <p>* 川端康成氏ノーベル文学賞受賞(12月)</p> <p>* 3億円事件発生(12月)</p>
昭和 44 年度 (木村)	<p>5.16 第9回通常総会(起雲閣本館：出席52名) * 自動車事業の発足に伴い、定款を変更</p> <p>11.12 臨時総会(さがみや：出席47名) * 第6回優良従業員表彰式(41名)</p>	<p>* 東大安田講堂占拠に機動隊が出勤、学生を排除(1月)</p> <p>* 中ソ両軍衝突(3月)</p> <p>* 人類初めて月表面に立つ(7月)</p>

組合の歴史 I (昭和35年～平成2年)

年次	組合の動き	社会の動き
昭和45年度 (木村)	5.18 第10回通常総会(ホテルおかだ：出席53名) 10.28 組合創立10周年記念式典(鉄道会館ルビーホール) 11.26 第7回優良従業員表彰式(35名)	* 日本万国博開幕(3月) * 赤軍派、日航機 くよど号 をハイジャック(3月) * 歩行者天国始まる(8月) * 三島由紀夫と楯の会会員、割腹自殺(11月)
昭和46年度 (秋元)	5.18 第11回通常総会(銀扇楼：出席49名) * 役員改選：秋元理事長、熊谷・椿良輔副理事長、他の役員を選任 11.17 臨時総会(椿山荘：出席54名) * 木村秀吉、細山礼吉両氏へ感謝状と記念品贈呈 * 第8回優良従業員表彰式(39名)	* 沖縄返還交渉成立(6月) * 天皇、皇后ご訪欧(10月) * ドルの急落により円切上げとなる(1ドル308円に)(12月)
昭和47年度 (熊谷)	5.23 第12回通常総会(赤尾ホテル：出席52名) * 秋元理事長辞任のため熊谷俊男氏を理事長に互選 7.29 木村秀吉相談役(初代理事長)、逝去 11. 8 臨時総会(さがみや：出席57名)	* 元日本兵横井庄一さん、グアム島ジャングルで28年ぶりに発見(1月) * 札幌冬季オリンピック開幕(2月) * 沖縄27年ぶりに返還(5月) * 日本赤軍イスラエル・テルアビブ空港襲撃事件発生(5月)
昭和48年度 (熊谷)	5.22 第13回通常総会(大和ホテル：出席65名) * 役員改選：熊谷理事長、上野・梅田副理事長、他の役員を選任 11. 9 臨時総会(椿山荘：出席62名) * 第10回優良従業員表彰式(45名)	* ベトナム和平協定調印(1月) * アラブ産原油大幅値上げ(8月) * 金大中事件発生(8月) * 第4次中東戦争勃発(10月) * 石油ショックのため主婦らトイレットペーパー、洗剤、砂糖の買いだめに殺到(11月)
昭和49年度 (熊谷)	5.21 第14回通常総会(吉野旅館：出席79名) 11. 7 臨時総会(椿山荘：出席77名) 50. 3.10 手塚信一理事・事務局長逝去	* フィリピン・ルバング島で小野田寛郎元少尉救出(3月) * 丸ノ内三菱重工ビル、三井物産本社ビル、大成建設ビルの爆破続発 (7-11月)
昭和50年度 (熊谷)	5. 8 河内泰治事務局長任命 5.21 第15回通常総会(東京会館：出席74名) * 役員改選：熊谷理事長、上野・梅田副理事長、他の役員を選任 11.11 臨時総会(椿山荘：出席75名) * 東京ガス(株)からの天然ガス転換協力要請に基本的に協力を決議 * 第12回優良従業員表彰式(74名)	* 沖縄海洋博開幕(6月) * 日本赤軍、クアラルンプールの米・スウェーデン両大使館を占拠(8月) * 広島カープ、セ・リーグ初優勝(10月) * 公労協、スト権ストに突入・8日間にわたり国鉄全線ストップ(11月)

年次	組 合 の 動 き	社 会 の 動 き
昭和 51 年度 (熊谷)	5.21 第16回通常総会(パレスホテル：出席66名) 8.19 尾崎新治理事逝去 11. 5 臨時総会(椿山荘：出席76名) * 第13回優良従業員表彰式(43名)	* NHK社員夫妻の間に5つ子誕生(1月) * ロッキード事件により田中前首相逮捕(7月) * モントリオールオリンピック開幕(7月) * ジミー・カーター氏米大統領に当選(11月)
昭和 52 年度 (熊谷)	5.26 第17回通常総会(吉池：出席81名) * 役員改選：熊谷理事長、上野・梅田副理事長、他の役員を選任 11. 9 臨時総会(椿山荘：出席70名) 53. 3. 1 官公需共同受注適格組合の認可 (53東産商第1545号)	* ソ連200カイリ漁業専管水域を決定(2月) * 成田空港闘争で反対派の鉄塔強制撤去(5月) * 王選手ホームラン世界新記録(9月) * 日本・西独赤軍のハイジャック事件発生(10月)
昭和 53 年度 (熊谷)	5. 8 秋元時一郎相談役(元理事長)逝去 5.24 第18回通常総会(吉池：出席64名) 11. 9 臨時総会(椿山荘：出席60名) * この年、「日本業務用厨房企業名鑑」発刊	* 伊豆大島近海地震(M7.0)(1月) * 成田空港開港(5月) * 宮城県沖地震(M7.5)(6月) * 日中平和友好条約調印(8月) * 巨人が江川と契約(11月)
昭和 54 年度 (熊谷)	5.11 第19回通常総会(椿山荘：出席68名) * 役員改選：熊谷理事長、上野・梅田・細山副理事長、他の役員を選任 11. 9 臨時総会(椿山荘：出席71名)	* 米中国交正常化(1月) * 東京サミット開催(6月) * イランで米大使館員人質事件(11月)
昭和 55 年度 (熊谷)	4. 3 細山礼吉相談役(元理事)逝去 5.28 第20回通常総会(ホテル奥湯本：出席84名) 12. 4 創立20周年記念式典(椿山荘) 56. 1.25 村田幸一理事逝去	* 鈴木内閣発足(7月) * モスクワオリンピック開幕(7月) * イラン・イラク戦争勃発(9月) * 巨人、長島を解任(10月) * レーガン米大統領誕生(11月)
昭和 56 年度 (熊谷) (上野)	5.19 第21回通常総会(箱根奥湯本：出席85名) * 業界外大手企業進出阻止に関する事項決議 * 役員改選：熊谷理事長、上野・細山・鈴木副理事長、他の役員を選任 9. 4 第5回理事会(18名) * 熊谷理事長の辞任承認及び上野理事長、宮本副理事長を選任 11.12 臨時総会(東京椿山荘：出席76名) 57. 1. 2 秋元元理事逝去	* ポートピア'81開幕(神戸)(3月) * 米国有宇宙連絡船「スペースシャトル・コロンビア」打上げに成功(4月) * 北海道・北炭夕張炭坑でガス突出・死者行方不明93人(10月)

組合の歴史 I (昭和35年～平成2年)

年次	組合の動き	社会の動き
昭和57年度 (上野)	5.25 第22回通常総会(箱根奥湯本：出席84名) 11. 9 臨時総会(東京椿山荘：出席67名)	* ホテル・ニュージャパンで火災、死者32人、重軽傷者29人(2月) * 日航機DC8型、羽田沖で墜落、死者32人、重軽傷者29人(2月) * イスラエル軍、レバノン侵攻(6月)
昭和58年度 (村田)	5.12 河内事務局長逝去 5.27 第23回通常総会(箱根奥湯本：出席73名) * 役員改選：村田理事長・細山・鈴木・徳増副理事長、他の役員を選任 8. 3 新事務局長の就任承認(横山事務局長) 11. 9 臨時総会(東京如水会館：出席78名) * 共同購入基本契約制定 * 組合員企業優良従業員表彰	* NHKテレビ「おしん」放送開始(4月) * 東京デイズニーランド開園(4月) * フィリピン、アキノ氏暗殺事件(8月) * 大韓航空機墜撃事件(9月) * 三宅島大噴火(10月) * ロッキード事件・田中元首相有罪判決(10月)
昭和59年度 (村田)	4.16 梅田理事(元副理事長)逝去 5.23 第24回通常総会(東京如水会館：出席68名) 11.13 臨時総会(東京郵便貯金会館：出席67名) * 組合員企業優良従業員表彰 3. 5 岩崎元理事逝去	* 江崎グリコ社長誘拐事件(3月) * 植村直巳氏マッキンリーで消息断つ(3月) * ソ連サリュート7号3飛行士が宇宙滞在新記録(10月)
昭和60年度 (村田) (鈴木)	5.22 第25回通常総会(東京郵便貯金会館：出席65名) * 役員改選：村田理事長・細山・鈴木・徳増副理事長、他の役員を選任 11.12 臨時総会(東京郵便貯金会館：出席66名) * 組合員企業優良従業員表彰 61. 2.14 村田理事長逝去 3. 7 第4回理事会：村田理事長死去に伴い、鈴木理事長、深沢副理事長を選任	* つくば科学万博始まる(3月) * NTT、日本たばこ産業発足(4月) * 豊田商事・永野会長惨殺(6月) * 日航ジャンボ機墜落520人死亡(8月) * コス疑惑の三浦和義逮捕(9月) * 阪神21年ぶりに優勝、(10月)
昭和61年度 (鈴木)	5. 8 第26回通常総会(箱根奥湯本：出席65名) 7. 8 徳増副理事長逝去 10.11 臨時総会(東京郵便貯金会館：出席63名) * 組合員企業従業員表彰	* スペースシャトル爆発(1月) * マルコス政権崩壊(2月) * チェルノブイリ原発大事故(4月) * 東京サミット(5月) * 三原山大噴火、島民避難(11月)
昭和62年度 (鈴木)	5.21 第27回通常総会(箱根奥湯本：出席65名) * 役員改選：鈴木理事長・細山・深沢・尾崎副理事長、他の役員を選任 11.19 臨時総会(東京郵便貯金会館：出席70名) * 組合員企業優良従業員表彰	* 石原裕次郎死去(7月) * ベン・ジョンソン9秒83の新記録(8月) * ノーベル医学生理学賞、利根川博士受賞(10月)

年次	組 合 の 動 き	社 会 の 動 き
昭和 63 年度 (鈴木)	<p>5.12 第28回通常総会(箱根奥湯本：出席75名)</p> <p>10.18～19 韓国金属工業協同組合来日</p> <p>11. 9 臨時総会(東京郵便貯金会館：出席50名) * 組合員企業優良従業員表彰</p> <p>2.23 臨時総会(東京鉄道会館：出席60名) * 消費税の転嫁と表示に係わる共同行為実施のための定款変更承認</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 世界最長の青函トンネル開通(3月) * 本州四国連絡橋瀬戸大橋開業(4月) * リクルート事件発覚(6月) * イラン・イラク戦争停戦(8月) * ソウルオリンピック開幕(9月) * ブッシュ大統領誕生(11月) * 消費税法案採決(12月)
平成 1 年度 (鈴木)	<p>4.5～9 韓国厨房業界視察</p> <p>5.11 第29回通常総会(箱根奥湯本：出席64名) * 役員改選：鈴木理事長・細山・深沢・尾崎副理事長、他の役員を選任</p> <p>11.15 臨時総会(東京郵便貯金会館：出席63名) * 組合員企業優良従業員表彰他</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 昭和天皇崩御、「昭和」から「平成」(1月) * 北京・天安門事件で死者多数(6月) * サンフランシスコでM6.9の大地震(10月) * ベルリンの壁、28年ぶりに消滅(11月)
平成 2 年度 (鈴木)	<p>5.17 第30回通常総会(箱根奥湯本：出席69名)</p> <p>7. 9 鈴木相談役逝去</p> <p>10.26 創立30周年記念式典(東京椿山荘)</p>	<ul style="list-style-type: none"> * ゴルバチョフソ連大統領誕生(3月) * 花と緑の博覧会、大阪で開幕(4月) * イラク軍、クウェート侵攻(8月) * 東西両ドイツ統一(10月) * 平成天皇即位の礼(11月) * TBSの秋山氏、日本人初の宇宙飛行(12月)

組合の歴史 II (平成3年～12年)

(平成3年)

年次	組 合 の 動 き	社 会 の 動 き
平成 3 年度 (鈴木)	4.25 第1回理事会(出席17名) * 第31回通常総会提出議案 * 役員改選	1.17 湾岸戦争に突入
	5.21 第31回通常総会(箱根 ホテル奥湯本：出席66名) * 法定の通常総会の決議事項 * 鈴木理事長・細山・深沢・尾崎副理事長を選任	2.27 皇太子さま、立太子の礼
	6.12 第2回理事会(出席15名) * 副理事長業務分担および各委員会委員の選任 * 今期事業計画	3. 9 新都庁舎落成式
	6.25 第1回共同受注委員会 * 規約の改定に基づく運営	4. 8 都知事選、鈴木氏が磯村氏に85万票差
	7.26 第1回創立30周年記念厨房図面集編集委員会 (以下記念厨房図面委員会という) * 創立30周年を記念して厨房設計図面集作成を決定	5. 8 消費税改正案が成立
	8.26 第2回共同受注委員会 * 参加登録審査	5.14 千代の富士引退
	8.27 第2回記念厨房図面委員会	6.20 東北・上越新幹線東京駅乗入
	9. 3 第1回政策指導委員会 * 事務局長人事	7. 8 大蔵省、四大証券に営業自粛処分
	9.11 第3回記念厨房図面委員会	7.31 損失補填リスト準大手・中堅13証券も公表
	9.26 第1回活路開拓ビジョン調査事業委員会 (以下ビジョン委員会という) * 審議計画の決定 * 調査事業の決定	8.27 景気「いざなぎ」に並び(経企庁長官報告)
	10. 2 第4回記念厨房図面委員会	8. 5 本田宗一郎氏死去
	10. 8 第3回理事会(出席13名) * 臨時総会の開催日の決定ならびに提出議案審議 * 佐藤監事退任承認並びに谷口監事選任 * 東京ガス(株)業務用厨房設計施工事参入 * 創立30周年記念厨房設計図集編集委員会報告 * 東京都中小企業団体中央会組合功労者表彰推薦	9.15 普賢岳で火砕流、170棟焼失
	10.23 第2回ビジョン委員会 * 受注者側の調査内容の決定 * 発注者側調査内容の決定及び調査先の審議決定	10.14 ノーベル平和賞、ミャンマーのスー・チー氏に
	10.30 第5回記念厨房図面委員会	10.23 秋篠宮家に女兒誕生
	11.13 臨時総会(東京郵便貯金会館：出席75名) * 上半期財政状況報告 * 組合員企業優良従業員表彰	11. 5 宮沢内閣発足
	3.11.29 第6回記念厨房図面委員会 * 設計資料の選定 * トレース図面の校正	

(平成 3 年)

年次	組 合 の 動 き	社 会 の 動 き
平成 3 年度 (鈴木)	<p>4. 1.16 第7回記念厨房図面委員会</p> <p>2. 6 第8回記念厨房図面委員会 *トレース図面の校正</p> <p>2.18 第4回理事会(出席15名) *組合員の脱退(小川製作所・(株)フゝマツサ・ピ`ス) *東京都労働経済局高齢者対策室よりアンケート調査協力依頼 *各委員会報告(厨房図面集編集・活路開拓ビジョン調査)</p> <p>2.27 第3回ビジョン委員会 *アンケート調査結果の検討分析 *ビジョンの策定</p> <p>3. 3 第9回記念厨房図面委員会 *設計資料の校正 *トレース図面の校正</p> <p>3.17 第4回ビジョン委員会第4回 *調査報告書原案の検討</p> <p>3.27 第5回ビジョン委員会 *調査報告書の決定 *講習会開催日の決定</p>	<p>12. 8 ソ連邦消滅を宣言 国連 議席ロシアが継承</p> <p>4. 1.26 貴花田、平幕優勝最年少 記録達成、初の父子V</p> <p>2.23 アルベールビル冬季五輪 でメダル七個、橋本選手 初メダル</p> <p>3. 6 主要企業の業績が四年ぶ りに悪化、と日銀短観</p> <p>3.12 中国、改革路線を決定</p> <p>3.15 フジモリ大統領来日</p>

組合の歴史 II (平成3年～12年)

(平成4年)

年次	組合の動き	社会の動き
平成 4 年度 (鈴木)	4.22 第1回理事会(出席10名) * 第32回通常総会提出議案 * 賛助会員加入(三洋電機東京食品設備(株))	4. 7 歌手の藤山一郎に国民栄誉賞が決定
	5.19 第1回共同購入委員会 * サンヨー商品の取扱い	5. 7 細川前熊本県知事、新党結成
	5.21 第32回通常総会(箱根湯本・ホテル奥湯本：出席66名) * 法定の通常総会の決議事項 * 欠員役員補充の件	6. 9 PKO法案、未明に参院を通過
	6. 1 事務局長交代(横山局長→納見局長)	7.25 バルセロナ五輪開幕
	6.22 第1回共同受注委員会 * 東京ガス新宿超高層ビル8階厨房設備の共同受注	7.14 サザエさんの故長谷川町子さんに国民栄誉賞
	8. 3 第10回創立30周年記念厨房図面集編集委員会 (以下記念厨房図面委員会という) * 完成・納品までの作業スケジュール確認 * 図面最終原稿の確認 * 全体構成・製本(含表紙)の確認	8. 4 松本清張死去
	8.25 第11回記念厨房図面委員会 * 版下等の確認	9.12 毛利衛さんが乗り組む米スペースシャトル「エンデバー」打ち上げ。 学校五日制スタート
	9. 1 第12回記念厨房図面委員会 * 版下の確認	10.23 天皇・皇后両陛下、中国を訪問、 長島茂雄、巨人軍の監督に
	9.10 第2回共同受注委員会 * 東京ガス本社ビルの厨房設備にかかる組合との保守点検契約の解除	11. 3 米大統領選でクリントン圧勝
	9.10 第2回理事会(出席12名) * 賛助会員の脱退(株)クラコ) * 厨房設備設計事例集の印刷部数および頒布価格方法等 * 東京ガス新宿超高層ビル8階厨房設備の共同受注 * 東京ガス本社ビルの厨房設備にかかる保守点検契約解除 * 会館電気設備工事の実施とその資金調達	12.18 韓国大統領選で民自党・ 金泳三候補が当選
	9.22 第13回記念厨房図面委員会 * 最終版下の確認	5. 1. 1 ECの市場統合始まる
	10.12 臨時総会(如水会館：出席62名) * 上半期財政状況報告 * 組合員企業優良従業員表彰	1.25 連続優勝の曙、横綱に 1.30 「青い山脈」の作曲家・服部良一死去

(平成 4 年)

年次	組 合 の 動 き	社 会 の 動 き
平成 4 年度 (鈴木)	10.26 記念厨房図面集完成 (1530冊) 4/10~5/3にかけて販売 (1383冊) 5. 2.22 第3回理事会(出席11名) * 組合員の脱退((株)二葉工業) * 賛助会員の加入(東邦生命・イトマン) * 4年度組合決算見通し * 研修見学会	

組合の歴史 II (平成3年～12年)

(平成5年)

年次	組合の動き	社会の動き
平成 5 年度 (上野)	4.27 第1回理事会(出席10名) * 通常総会提出議案 * 組合員の脱退(東京特殊鋼(株)) * 組合役員改選	4.23 天皇后が沖縄訪問
	5.20 第33回通常総会(箱根湯本・ホテル奥湯本：出席66名) * 法定の通常総会の決議事項 * 役員改選の件	5.15 プロサッカーのJリーグ、 国立競技場で開幕
	5.20 第2回理事会(出席14名) * 上野理事長と細山・鈴木・深沢副理事長の選任	5.31 伊豆半島東方沖で群発地震発生
	6.29 第3回理事会(出席15名) * 組合員の脱退(株)内山製作所 * 組合事業組織機構の変更	6. 9 皇太子ご成婚
	7.28 第1回組合事業活性化対策委員会 * 委員会活動の今後の進め方	8. 9 細川連立内閣が発足
	9. 8 第1回組合事業活性化対策委員会 * 「共同事業利用の手引き」内容の検討 * 「組合員事業実態調査アンケート」(案)	9. 3 天皇后欧州へ
	9.17 第1回共同購入委員会 * 共同購入事業の見直しと今後の在り方 * 取扱商品の型式変更及び価格改訂	10. 3 エ・露大統領、モスクワに非常事態を宣言、軍隊に出動命令
	9.29 第4回理事会(出席17名) * 組合事業活性化委員会の活動状況 * 共同購入委員会の報告	11. 2 ヤクルト、日本一に
	11. 9 臨時総会(東京郵便貯金会館：出席65名) * 上半期財政状況報告 * 組合員企業優良従業員表彰	11.18 コメの緊急輸入の第1陣、 タイから到着
	6. 2.16 第5回理事会(出席15名) * 組合員の組合脱退(林田商事(株)・三和厨器(株)) * 賛助会員の加入((株) 斗セキエンジニアリング) * 韓国商業用調理機械工業(協)視察団の訪日 * 組合員事業実態調査アンケート集計(中間)	12.16 田中角栄元首相死去
	3.16 第2回共同購入委員会 * 取扱商品の追加に伴う共同購入条件 * 取扱商品の販売条件基準	6. 1.29 政治改革関連四法案、衆 参両院で可決成立
		2. 1 酒税法改正で地ビール解禁
		2. 8 政府、6兆円規模の減税先行実施で合意。15兆2千5百億円の「総合経済対策」決定
	3.18 グリコ事件時効に	

(平成 6 年)

年次	組 合 の 動 き	社 会 の 動 き
平成 6 年度 (上野)	4. 8 第3回組合事業活性化対策委員会 *「組合員事業実態調査アンケート」の集計結果 *事業計画の検討	4. 8 細川首相、資金運用不祥事 発覚で辞意
	4.27 第1回理事会(出席14名) *通常総会提出議案 *組合員の脱退(墨水交易(株)・(株)服部製作所)	4.28 羽田内閣発足
	5.19 第34回通常総会(箱根湯本・ホテル奥湯本：出席62名) *法定の通常総会の決議事項	5. 6 英仏海峡トンネル開通
	6. 6 インセクト・キール(電撃殺虫器) 拡販セール	6.27 長野県松本市住宅地で深夜 有毒ガス(サリン)が発生
	6. 6 日立家電夏期特別価格セール	6.30 村山富市・社会党委員長を 首相とする「自社さ」連立 内閣が発足
	7.29 第2回理事会(出席13名) *賛助会員加入(協和クリーンプロ(株)・ゼット オー販売(株)) *共済生命(グループ保険)の移行 *高速道路通行料金別納制度への加入検討	7. 9 金日成主席死去
	9.20 厨房施設見学会(ホテル パークハイアット東京： 東京都新宿区)	9.20 オリックスのイチロー選手 は初の年間200本安打を達成
	10.19 第4回組合事業活性化対策委員会 *「高速道路利用料金の別納制度」利用検討	10.13 大江健三郎ノーベル文学賞
	10.24 第3回理事会(出席15名) *臨時総会提出議案等 *組合員の脱退((株)東泉製作所) *組合員の出資金増額 *委員会の活動状況報告	11.20 横綱・貴乃花誕生
	11.10 臨時総会(東京郵便貯金会館：出席55名) *上半期財政状況報告 *組合員企業優良従業員表彰	12.10 新進党結党大会開催。
	11.15 日立家電冬期特別価格セール	12.28 ロシア軍、チェチェン共和 国の首都に突入
	7. 2.16 第4回理事会(出席15名) *組合員の脱退(高砂厨房工業(株)) *韓国厨房業界視察旅行の計画	7. 1.17 午前5時46分頃、阪神・ 淡路大震災が発生
		2. 5 新潟県巻町で原発建設の賛 否を問う住民自主管理投 票、反対が95%
		3.20 早朝、都内地下鉄の複数駅 でサリン発生。死傷者、5 千名以上
		3.22 オウム真理教の家宅捜索が 始まる
		3.30 国松孝次・警察庁長官が狙 撃

組合の歴史 II (平成3年～12年)

(平成7年)

年次	組合の動き	社会の動き
平成7年度 (上野)	4.26 第1回理事会(出席10名) * 通常総会提出議案 * 賛助会員の脱退(東邦生命(相)・(株)日立家電) * 組合員の出資金増額 * 組合役員改選	4. 9 青島幸雄東京都知事と横山ノック大阪府知事が誕生
	5.18 第33回通常総会(箱根 ホテル奥湯本:出席64名) * 法定の通常総会の決議事項 * 役員改選の件	5.16 オウム真理教代表の麻原彰晃容疑者逮捕
	5.18 第2回理事会(出席13名) * 上野理事長と細山・鈴木・深沢副理事長の選任	5.31 青島都知事、世界都市博覧会の中止を正式決定
	6. 2 厨房施設見学会(ウェスティンホテル東京:恵比寿)	6.27 政府「金融機関の不良債権処理に公的資金導入」を検討する方針打ち出す
	7. 5 第1回共同購入委員会 * 東京ガス(株)横浜港北ニュータウン支社の厨房設備共同受注	7. 5 福田赳夫元首相が逝去(90歳)
	7.26 第3回理事会(出席13名) * 組合事業組織の変更 * 各委員会報告 * 厨房業者総合保障プランの見直し * 韓国商業用調理機械工業(協)の訪日 * 都市博中止にともなう損失補償	7. 2 米大リーグの野茂投手オールスター選出場決定
	9.18 第5回組合事業活性化対策委員会 * P L 法施行に伴う「総合保障プラン」の見直し * 労働時間短縮(週44時間から40時間)に係る組合の取組み	8.24 「Windows95」が世界25カ国で一斉発売。
	10.20 第4回理事会(出席11名) * 臨時総会提出議案等の審議 * 組合員の脱退(株)クレヴァ厨房 * 組合事業活性化対策委員会の活動状況報告 * 新厨房業者総合補償プラン	9.26 大和銀行ニューヨーク支店で債券売買に失敗、約1000億円超の損失を発表
	11.16 臨時総会(東京郵便貯金会館:出席56名) * 上半期財政状況報告 * 組合員企業優良従業員表彰	10.27 仏、3回目の地下核実験
	8. 1.29 賀詞交歓会(日本厨房工業会と共催) (東京郵便貯金会館:出席170名 内組合員54名)	10.30 ヤクルト、3度目の日本一に
	2.19 第4回理事会(出席14名) * 平成7年度の組合決算見直し	11. 2 大和銀行、米国から全面撤退
	3.19 第6回組合事業活性化対策委員会 * 平成8年度事業項目の検討	11. 5 イスラエル・ラビン首相暗殺
		12. 8 高速増殖炉原型炉「もんじゅ」で液体ナトリウム漏れ事故発生
		8. 1.11 村山内閣総辞職。自社さによる連立組閣
		2.12 作家・司馬遼太郎死去
		2.16 菅直人厚生大臣「HIV(エイズウィルス)訴訟」原告に非加熱血液製剤の国の責任を認め、謝罪
	3.28 金丸信・元自民党副総裁死去	

(平成 8 年)

年次	組 合 の 動 き	社 会 の 動 き
平成 8 年度 (上野)	4.26 第1回理事会(出席13名) * 通常総会提出議案 * 組合事業活性化対策委員会の報告	4. 1 東京三菱銀行発足。世界最大の銀行誕生。
	5.21 第36回通常総会(箱根 ホテル奥湯本：出席62名) * 法定の通常総会の決議事項	6.18 参院本会議で住専処理特別法案、金融関連5法案決・成立
	6.18 日立家電夏期特別価格セール	7.12 英国チャールズ皇太子とダイアナ妃、離婚合意
	6.26 厨房施設見学会(聖路加国際病院、東京新阪急ホテル：東京都中央区)	7.15 堺市集団食中毒患者から病原性大腸菌O157検出
	7. 3 象印商品特別販売キャンペーン	7.19 アトランタオリンピック開幕
	7.26 第2回理事会(出席16名) * 自動車購入に関する事業実施要項の改訂 * 共同事業利用の手引きの見直し	8. 4 俳優・渥美清死去
	10.29 第3回理事会(出席13名) * 上半期の組合収支状況等の報告 * 厨房業者総合保障プランの契約更改・新規加入募集 * 高速道路通行料金別納制度への加入紹介 * 市外通話料割引制度への加入紹介	9. 2 「整理回収銀行」が発足
	11. 6 日立家電冬期特別価格セール	9.17 ドジャースの野茂英雄投手、ノーヒット・ノーラン
	12.11 第7回組合事業活性化対策委員会 * 平成9年度事業項目の検討	9.28 民主党結党大会
	9. 1.17 賀詞交歓会(日本厨房工業会と共催) (東京郵便貯金会館：出席163名 内組合員44名)	11. 5 米大統領選でクリントン圧勝
	2.18 第4回理事会(出席13名) * 組合員の脱退(株)ナガホリコーポレーション * 賛助会員への加入(株)一課 * 平成8年度の組合決算見直し * 組合役員(理事)の定数削減の検討 * 関厨福祉共済制度の改訂に係る保険金受取人変更の選択	11. 7 橋本龍太郎首相誕生
		12.17 ベルー・リマ日本大使公邸、ゲリラが占拠
		9. 1. 1 ロシアタンカー遭難による重油が流出事故
	2.20 鄧小平氏死去	
	3.11 動燃東海事業所の核燃料再処理工場で火災・爆発事故	

組合の歴史 II (平成3年～12年)

(平成9年)

年次	組合の動き	社会の動き
平成 9 年度 (上野)	4.24 第1回理事会(出席15名) * 通常総会提出議案 * 関厨福祉共済制度の加入及び共済金請求手続きの変更について	4. 5 東京駅前「丸ビル」閉館 4.22 ベルーの日本大使公邸占拠事件、特殊部隊が突入で解決。
	5.16 第37回通常総会(臨海副都心：台場 ホテル日航東京 出席63名) * 法定の通常総会の決議事項 * 定款変更の件 * 役員改選の件	5.27 神戸市須磨区で「酒鬼薔薇聖斗」事件 6.21 勝新太郎死去
	5.16 第2回理事会(出席15名) * 上野理事長と細山・鈴木・深沢副理事長の選任	7. 1 香港返還 8.31 パリで英国のダイアナ元皇太子妃事故死。
	6. 5 日立家電夏期特別価格セール	9. 6 ベネチア国際映画祭で北野武監督の「HANA-BI」が金獅子賞(グランプリ)を獲得
	6.20 第3回理事会(出席9名) * マルチメディア検討委員会の設置 * 組合事業組織	9.11 第2次橋本内閣発足
	7.23 第1回マルチメディア検討委員会 * 委員会活動の今後の進め方 * インターネットのドメイン名	10. 1 長野新幹線開業 10.16 臓器移植法施行
	9. 9 第2回マルチメディア検討委員会 * アンケート調査項目・様式の検討 * インターネットのドメイン名の名付け	11.20 行政改革会議最終報告決定、1府12省
	9.26 第4回理事会(出席12名) * 組合員の脱退(シーエス工業(株)) * 賛助会員への加入((株)日立ホームテック) * 組合員のインターネット利用実態及びニーズ調査の実施	11.17 北海道拓殖銀行、都銀初の経営破綻 11.24 山一証券自主廃業申請
	11. 7 第3回マルチメディア検討委員会 * アンケート調査結果による今後の活動 * 組合に設置のパソコン機種選定 * プロバイダーの選定とインターネット接続	12. 9 金大中韓国大統領誕生 10. 1.21 クリントン大統領に新スキヤンダル
	11.20 日立家電冬期特別価格セール	
	10. 1.14 賀詞交歓会(日本厨房工業会と共催) (東京九段：ホテルグランドパレス：出席160名 内組合員45名)	
	1.20 第4回マルチメディア検討委員会 * 組合設置のパソコン機種とインターネット接続 * 組合ホームページの構成・内容 * インターネット基礎的講習会の開催	
	1.29 第5回理事会(出席14名) * 平成9年度の組合決算見直し * マルチメディア検討委員会の活動状況報告	

(平成9年)

年次	組 合 の 動 き	社 会 の 動 き
平成 9 年度 (上野)	10. 2. 1 事務局長交代（納見局長→長友局長） 2.20 厨房施設見学会（パンパシフィック ホテル横浜： 横浜市西区） 3. 6 日立家電春期特別価格セール	10. 2. 7 第18回冬季五輪が長野で 開催

組合の歴史 II (平成3年～12年)

(平成10年)

年次	組合の動き	社会の動き
平成 10 年度 (上野)	4.21 第1回理事会(出席14名) *通常総会提出議案 *組合事業活性化対策委員会の報告	4.5 世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」が開通
	5.21 第38回通常総会(目白：椿山荘 出席63名) *法定の通常総会の決議事項	5.11 インドが地下核実験
	6.8 日立家電夏期特別価格セール	5.26 29年ぶりに米国、財政黒字
	9.29 第2回理事会(出席14名) *組合員の脱退(株)松崎製作所・クレヴァサービス(株) *研修見学会の実施 *マルチメディア委員会の活動状況 *最近の中小企業金融対策	5.27 横綱若乃花誕生
	10.13 日立家電冬期特別価格セール	6.22 金融監督庁が発足
	10.21 厨房施設見学会(ホテル グランパシフィックメリディアン：港区台場)	7.25 和歌山市で毒入りカレー事件発生
	12.1 小越相談役逝去	7.30 小淵恵三総裁新首相へ
	11.1.21 第3回理事会(出席12名) *平成10年度の組合決算見直し *組合員の脱退(株)福本製作所	8.31 北朝鮮：弾道ミサイルを発射
	3.26 マルチメディア検討委員会 *事務局にて作成した組合ホームページ(たたき台)の検討	9.27 米大リーグのマグワイア選手は本塁打新記録の通算70号
		11.12 淀川長治さん逝去
		11.1.1 EUの通貨統合始まる
		1.14 自自連立内閣が発足

(平成 11 年)

年次	組 合 の 動 き	社 会 の 動 き
平成 11 年度 (上野)	4.27 第1回理事会(出席15名) * 通常総会提出議案 * 組合員の脱退(ハマシン (株))	4.11 石原都知事誕生
	5.26 第39回通常総会(恵比寿：ウェスティンホテル東京：出席63名) * 法定の通常総会の決議事項 * 役員改選の件	5. 1 本四連絡自動車道、尾道・今治ルートが開通
	5.26 第2回理事会(出席17名) * 上野理事長と細山・鈴木・深沢副理事長の選任	5.21 トキのひなが誕生
	6. 9 日立家電夏期特別価格セール	6. 4 東邦生命に対し業務停止命令
	6.26 マルチメディア検討委員会 * 組合ホームページ (たたぎ台) 改良版の検討	8. 9 国旗・国歌法が成立
	7. 6 パロマ製品夏期特別価格セール	8.19 興銀、第一勧銀、富士：共同持ち株会社構想
	9.24 第3回理事会(出席16名) * 組合員の脱退(大伸工業 (株)) * 11年度東京都中小企業団体中央会会長表彰の組合功労者	9.30 茨城県東海村で「臨界事故」
	10.25 マルチメディア検討委員会 * サーバーをレンタルし、ホームページを移行。	10.14 住友とさくら銀行：2001年4月をメドに合併
	11. 5 日立家電冬期特別価格セール	10.28 福岡ダイエー初の日本一
	11.16 采沢理事逝去	11.12 イトーヨーカ堂、銀行業に参入を表明
	11.16 厨房施設見学会 (新高輪ホテル「国際館パミール」：港区高輪)	12. 9 ソニー、インターネットバンクに参入を表明
	12. 1.18 賀詞交歓会 (日本厨房工業会と共催) (メルパルク：出席160名 内組合員45名)	12. 1.24 官庁のホームページ、ハッカー被害が続出
	1.27 第4回理事会(出席16名) * 平成 11 年度の組合決算見直し	2.13 準大手スーパーの長崎屋、会社更生法の適用
		3.25 プーチンロシア大統領誕生
	3.31 北海道の有珠山が23年ぶりに噴火。住民4000人余りが避難	

組合の歴史 II (平成3年～12年)

(平成12年)

年次	組合の動き	社会の動き
平成 12 年度 (上野)	4.24 第1回理事会(出席16名) *通常総会提出議案 *組合創立記念行事の実施について	4.1 「介護保険」・「民事再生法」施行
	5.24 第40回通常総会を兼ねて組合創立40周年祝賀会開催 (港区赤坂：ホテルニューオータニ 出席63名) *法定の通常総会の決議事項 *役員改選の件	4.5 森内閣発足
	6.9 日立家電夏期特別価格セール	5.3 福岡県太宰市で17歳少年によるバスジャック発生
	6.26 マルチメディア検討委員会 *組合ホームページ(たたき台)改良版の検討	6.13 南北首脳会談のため金大中・韓国大統領が平壤入り
	7.6 パロマ製品夏期特別価格セール	6.28 雪印乳業中毒事件
	7.18 丹羽理事逝去	7.12 そごう、民事再生法の適用を申請
	9.29 第2回理事会(出席16名) *賛助会員の脱退(協和クリーンプロ(株)・(株)日立ホームテック・(株)一課) *「40周年記念誌」編集委員会の設置	7.19 2000円札発行
	10.16～17 東京ガス：機器接続講習会	7.21 九州・沖縄サミット、名護市で開幕
	11.2 組合創立40周年	8.11 日銀、ゼロ金利を解除。
	11.15 日立家電冬期特別価格セール	9.15 シドニー五輪開幕
	13.3.6 桧垣理事逝去	10.10 白川英樹・筑波大名誉教授にノーベル化学賞
		10.15 長野県知事選で作家の田中康夫氏が当選
		11.6 佐々木圭浩投手：大リーグの新人王

組合創立40周年を振り返って

[出席者]

理事長 上野 一雄

相談役 熊谷 俊男

副理事長 細山 喜三郎

副理事長 鈴木 紘正

副理事長 深沢 信生 (司会)

40周年記念座談会

1 組合設立前後

深沢 当組合は創立40周年を迎えました。組合の設立当時というのは、皆さんご苦勞をいろいろさされたらうし、その時代背景がいろいろあったと思うんです。そういったことを、生き証人でいらっしゃる熊谷相談役、それから上野理事長、このお二人を中心に組合の設立当時の状況、厨房業界の状況をお聞かせいただきたいと思います。

細山 もう、ふたりしかおられませんからね。

熊谷 本当、いないんだ（笑い）。

昭和35年の5月に組合設立の総会をしましたが、その設立前の昭和31年頃に厨房設備協和会という任意団体を創りました。秋元さん、宮本さん、木村さんとか、何人か知りあった者がたまにあって会を進めた。話しもしたし、喧嘩もよくしたね（笑い）。宮本さんがテープレコーダーをテーブルの下に置いて、それをかけて喧嘩したのを、よく覚えています。

*秋元さん（秋元時一郎氏：当組合第二代理事長、元 秋元調理機器(株) 社長）

*宮本さん（宮本留一郎氏：当組合元理事、元 (株) 宮本製作所社長）

*木村さん（木村秀吉氏：当組合初代理事長、元 (株) 木村製作所社長）

細山 当時のテープレコーダー、こんなにでかいでしょう？

熊谷



当時はまだ、元気がよかったですね。三段の炊飯器を担いで運んでいたくらいですから。そういう元気がいいのが業界で話しをすると、どっちかという、喧嘩ごしのような会になりますよ。神谷町にあった木村さんの倉庫みたいなところを借りてね。組合設立は昭和35年ですから、厨房というのが少し陽の目を見るようになった頃です。うちの親父なんかも、厨房という名前を言ったって分からないから、「息子は東京で、鍋釜を売る商売をしているんだ」という認識が、当時はありました。ですから、是非とも組合を創らなければという意気込みでした。それで、昭和35年8月に組合を創ったんです。発足時は30人ちょっとですね。それで、組合員からいくらずつ…？

上野 出資金は、各企業3万円ずつ、32名、96万円です。

深沢 でも、昭和35年、当時の3万円というのは、大きなお金でしたでしょ。

鈴木 大学卒の初任給の2ヶ月分ちょっとですよ。

熊谷 それを会の基金として、さらに関連のステンレスメーカーに応援を頼み、共同仕入れ等を始めました。組合会館の建設が38年ですから、35年に創立して3年後ぐらいに建築したんです。ステンレスメーカーにも随分寄付してもらいました。

深沢 もう、そのとき上野理事長も参加されていたのですか。

上野 以前の橋駅の二階にあった日本食堂の会合のときから参加したんです。

※昭和33年3月15日「協和会」定時総会：設立発起人代表、木村秀吉氏から
協同組合移行への提案がなされた歴史的な総会

深沢 この運営はやはり会費というか、今の賦課金でやっていたのですか。

上野 そうです、賦課金ですね。

深沢 賦課金だけでやるというのは大変でしたね。

上野 事務員さんの費用も払わなきゃいけないですから。

2 ステンレスメーカーと会館設立

深沢 ステンレス協会が応援してくれたという話なんかも聞いているのですけれども。

上野



そう、ステンレスが、漸く陽の目を見るようになったのは、進駐軍が来てからなんです。でも当時は、鉄板のような黒肌のステンレスでしたよ。研磨屋に持って行って磨いてもらおうと、生地がアバタだとか、たくさんの傷がある、そういうステンレスから始まったわけです。13クローム、18クローム、18-8等の分類がありました。今は13クロームという話は聞いたことないですね。18クロームより13クロームの方が安いから、主に使ったのだと思いますね。

日新製鋼がセンジミアミルという圧延機を導入して、山口県の下松の工場で鏡面のようなステンレスを作ったんです。我々厨房業者はステンレス板を数でこなしますから、日新製鋼は、昭和34年、当時の二等車をつらねた特別列車を仕立て、我々業者を招待したこともあったのです。ステンレスメーカーといえば、あの頃は、日新製鋼、日本ステンレス、川鉄、日本金属、日本冶金だったかな。日本冶金は18-8だけ。川鉄と日新製鋼と日本ステンレス、これは13のクロームもやっていた。

40周年記念座談会

深沢 その頃は、まだステンレスは、限られた分野でしか使用されなかったから、厨房というのはいいお得意さんなるだろうということで、協力してくれたわけですね。

上野 そうです。ステンレス業界は我々の業界に対して、非常に注目していたわけです。それで我々の団体ができたということで、期待して援助をしてくれたわけです。

熊谷 当時は、ちょうど日新製鋼、川鉄が育ってきて、メーカー同士の競争が随分あった。だから組合が、ステンレスを共同仕入れして、そして組合員に配布しようとしたので、ステンレスメーカーも非常に高く評価してくれたわけです。組合会館建設のときは、建築の資金的な援助もしてくれました。

鈴木



しかし、この30数社で設立して、わずか2年後にもう会館を造ろうというような決議をして始めるわけです。30数社でも元気があったのですね。

熊谷 そう、元気ありましたね。

上野 会館を「持ちたい、持ちたい」という気持ちがあったけど、さて土地や金の手当てがつかないわけです。その時、熊谷さんが我々の拠点、今の赤羽橋に土地を見つけてくれました。そのうえ、ステンレス業界の折衝も全部熊谷さんやってくれたはずですよ。

細山 伸びると言うか、明るいムードがあったのでしょうかね。

熊谷 ありましたね。

細山 なかったら会館を建てようという意欲が起きないですよ。

鈴木 あの年代は日本全体が立ち上がって伸びていこうということがあったのですね。

細山 一階、二階が展示場でした。

鈴木 先見の明でしょうか。40年たって、目の前に地下鉄の駅ができましたから(笑い)。

3 日本厨房工業会設立の事情

深沢 大変な財産を残していただいたということです。
ご苦労されて組合会館を建てて、組合活動が本格化してきました。それと並行して、今の工業会の前身のような組織を作ろうということに動きが出てきましたが、そのへんのいきさつというのは？

上野 物品税対策です。確か34、35年ごろから、急に、ガス器具、戸棚等に対する物品税の締付けが強くなってきましたので、東京、大阪、名古屋の協同組合で、協同組合連合会を作って、対応しようかと考えました。しかし、いわゆる営利団体の協同組合では、役所は相手にしないというので、それでは工業会を作ろうということになったのです。昭和37年ですね。

深沢 全国厨房工業会設立世話人会を創りましたね。37年というと、組合ができてすぐですね。

上野 関連業者や厨房の同業者のところに行って、こういう趣旨のものをやらないかという話をしたわけです。

深沢 大変でしたね。

上野 ある会社に行ったら、「東京は何をやっているんだ。私達は、どうなるのか腕組みして見ているよ」。所謂、砂上の楼閣のようなものを作っているんじゃないかというような意味ですよ。そういうようなことを、言われたこともありました。こっちは腹を据えて、取り掛かったわけです。もちろん東京が犠牲的精神でやらなければ…とね。それで、うまくまとまったわけです。

4 東京ガスとの付き合い

深沢



それで、だんだん組合もしっかりしてきて、このへんから、東京ガスさんとの付き合いも活発になってきましたね。

上野 それは昭和38年頃の熱量変更がきっかけです。

40周年記念座談会

細山 3,600kalから5,000kalに変更されたんです。

上野 当時、我々、厨房業者には燃焼技術なんて何もないわけですよ。ですから、東京ガスさんに、こちらのほうからも技術的にも近づきたかったわけです。それで昔あった芝浦の研究所で、我々に、ガスはこうやって燃やしてというような講義をいろいろやってくれたのです。一方、東京ガスさんでは、5,000Kalに熱量変更するには、業務用の厨房器具はどのような形で作られているかを知らなくては熱量変更が出来ないので、我々の製品、例えばガスレンジ、魚焼器、ガステーブル、バーナー等を買って調べてくれたわけです。当時、そういうデータを東京ガスさんは持っていなかったようですね。

細山



一般に使われている業務用厨房ガス機器を、全体的に把握していなかったようです。そういうことから、組合にアプローチしてきたと思うんです。だから熱量転換を機会に、年に2回か3回、燃焼技術講習会を開いてもらいました。

上野 東京ガスさんでは我々の製品を分析し、集約した結果を我々に発表してくれたのです。

細山 当時は、とにかくガスは燃えればいいという感じでしたね。合羽橋へ行ったら、「プロパン用」等のガスの種類やカロリーの表示がされていなかったのです。

深沢 よく事故が起きなかったものですね（笑い）。

上野 昔はプロが使うのでそういう事故はほとんどありませんでした。フードもあれば、換気装置も完全についていましたから。昔はね、職人の腕前ということで対応していました。

5 欧米視察旅行

深沢 欧米の厨房業界の視察旅行ですが、これは38年、まだ1ドルが360円の時代で、まだ外貨持出額は1,000ドルの枠があって、当時、日本は海外旅行を非常に規制をしていた時代に、かなり大勢の組合の方々が勉強するため、欧州をまわり、東南アジアまで寄ってくるというような旅行をされている。昭和38年というと、まだ航空機は遅い飛行機で大変だったし、それに、お金もかかったのに、非常に熱心だったのですね。

熊谷 今のように、物見遊山の旅行という感じじゃなかったですよ。

鈴木 しかし、今だったら、旅行40日間というのは考えられないですね（笑い）。

細山 40日間、社長さん連中が会社をあけるというのが、大変なことですよ。

熊谷 日新製鋼の営業の松山さんも一緒に行きました。私も羽田の飛行場で乗るときには、うちの社員が横断幕を掲げて、「ばんざーい！」ってね。
何日にはここに着くといって、世界地図の上に小旗を立てて、宿泊するホテルにスルメなどが送られてきましたね（一同笑い）。

深沢 どうせ食べたくなるだろうから、送ってくれって？

鈴木 いや、お小遣いが足りないから（笑い）。

深沢 この旅行は1,000ドルでできなかったでしょ？

上野 100万円、かかりました。

深沢 当時の100万円というのは大変ですよ。給料が1万4,000円とか5,000円とかいっている時代ですから。

上野 公定レートが360円でしょ。現地銀行でのチェンジレートが405円ぐらいでしたね。

深沢 みんな金持ちだったんだなあ（一同笑い）。

上野 だから旅行費用100万円とすれば、小遣いは同額の100万円ぐらい持っていっているはずですよ。胴巻きにね（笑い）。

深沢 細山さんも一緒に行かれたわけ？

細山 親父と二人で行ったの。いちばん年配が親父でしょ。いちばん若いのが私なんです（笑い）。

深沢 じゃあ、親父がいたら悪いことできない（笑い）。
当時の海外といえは遠いですよ。そこへ40日間一緒に旅行しますと、それは、親しくなりますよね。どういうところを周られたのですか。ホテルの厨房を実際見学したのですか？

上野 そう。それと病院ですね。ヨーロッパの厨房メーカーの工場見学までしました。作っているところや出荷しているところを写真に撮りました。

40周年記念座談会

深沢 やはり進んでいましたか？

熊谷 進んでいましたね。病院なんかは進んでいましたよ。

上野 病院でも、日本の厨房はだいたいアメリカンスタイルで、動く透き間が小さいでしょう。ところが向こうは、いわゆるヨーロッパのキッチンで、すごく広いスペースをとっているんです。天井も高いし。そういう点は非常に参考になった。

深沢 東京オリンピックが昭和39年に開催されましたが、これで厨房業界の需要がバツと増大するというオリンピック効果があったのですか。

熊谷 ホテルオータニはオリンピックで建てましたが、あれはうちでやったのです。厨房はだいたいアメリカの設計で、横文字ばかりでしたが、私共もそこでアメリカのシステムを勉強しました。我が社もあれが転機です。

上野 それと、学校給食ですね。これが大きい需要となりました。給食は戦後すぐに始まったわけです。ガスで作る大きなかまどから始まって洗浄機でしょ。むしろ、今の外食産業よりも、集団給食、学校給食、病院給食、それから大きな会社の厚生施設等事業所給食の需要のほうが多かったかもしれません。その時にオリンピックがあったから、おのずと伸びたんでしょうね。

6 厨房業界の源流

深沢 木村さんが35年から45年、10年間、理事長を勤められて、その後、秋元さんが46年の5月に理事長になられたけれど、11月17日におやめになっていますね。

上野 交通事故で病気になられたのです。

熊谷 秋元さん、馬場さん、梅田さんは萩工業（萩工業貿易(株)）にいたんです。秋元さんと馬場さんは、どっちかというと営業マンで、梅田さんは工場のほうにいたのです。

*馬場さん（馬場鋭之助氏：当組合初代副理事長、元東郷厨房機器(株)社長）

*梅田さん（梅田勝徳氏：当組合元副理事長、元日本調理機(株)社長）

深沢 萩工業というのは、どういうメーカーだったのですか？ 厨房メーカーですか？

熊谷 いや、厨房が本職ではないんです。いまの三機工業みたいな大会社で、写真もやっていたし、何でもやっていた。厨房も扱っていたんですよ。戦争に負けて解散してしまいました。昭和調理器の生島さんもそこにいました。

*生島さん（生島四郎氏：当組合元理事）

上野 オリエンタル写真は萩工業の写真部門でした。

細山 堀田厨房の堀田さんは萩工業にいたんですか？

熊谷



堀田さんは食器屋にいました。木村さんの会社へ入って、そこから独立して厨房を始めたわけです。木村さんの会社はキングというブランドのレンジを製造していました。キングは、あの当時としてはナショナルブランドに近かった。

堀田厨房は芝の愛宕山のトンネルの前にあった。そんなに大きくはないけれども、業界の中では、ある程度知られた会社だったのです。私は、兵隊から帰ってきて、田舎で昭和21年に結婚して、また東京へ出てきた。うちの女房の実家が、田村町で荒川運輸と言う堀田厨房の運送屋をやっていました。それで、うちの女房の親父が私を使ってくれと頼んで、私は堀田厨房に入ったんですよ。営業を3年くらいやったのです。それが25年につぶれたから私は自分で会社を始めたんです。だから、うちの女房と結婚しなかったら、私、厨房屋にならなかった（一同笑い）。

鈴木 それで分かりました。うち、運送というと、荒川運輸ばかり使っていました。富士厨房さんとも親しいと聞いていましたので、どういう関係かなと思っていました。

熊谷 そうそう、あんたのどこも使っていたよね。

鈴木 そう、専属でした。一徹者の面白い運転手がいっぱいいました。

深沢 それは懐かしい話を伺って（笑い）。

上野 椿さんも確か戦前からやっていたんでしょう。

椿さんのところにいたのが東京厨房の西川さん。西川さんは椿さんの営業マンだった。独立して小岩に会社をつくり、厨房全般をやっていました。私はそこに入ったわけです。厨房業界の営業マンの草分けとなる先輩が数人いました。私はそこで勉強させてもらったのです。

*製品の多種多様性を反映してか、厨房業界には多士済々が結集し、業界の目的・方向性に対していろいろな意見があったが、ここでは、「厨房設備協会」会長で当組合相談役でもあった鈴木啓之氏（元（株）鈴木商行会長）を紹介しておきたい。「協和会」から当組合への移行時、鈴木氏は昭和35年4月に皇族の高木拝子（たかぎくにと）氏を会長にいただき、広く学識経験者を結集して「日本キッチン文化協会」を設立した。この会では、厨房業界の中堅技術者育成を目的に、「キッチン設備士制度」を創設し、昭和37年11月に、第一回キッチン設備士資格証書の授与を行って

いる。任意団体によるライセンスの交付である。氏は、業界団体はただ製品作りの指導・環境整備のみをするのではなく、厨房内の衛生管理、食文化を担える厨房設備業者の育成等を行うことも必要であると考え、学会との連携をも視野に入れた「厨房学」を提唱した。当時の業界主流の流れとはならなかったが、傾聴に値する意見も多く、「キッチン設備士制度」の動きは、その後、日本厨房工業会の「厨房設備士制度」に受け継がれていったのである。

7 熊谷理事長時代

深沢 少し話を進めさせていただきますと、昭和47年に熊谷相談役が理事長になられて、協調の広場、繁栄の広場、心の広場という、三つの組合精神を掲げました。このへんから組合員の数がだいぶ増えてきているようです。前は40名台だったのが60名台になって、それから組合員が増えましたね。組合の必要性というものを、更に熊谷理事長が強調されて、これをもっと発展させなくてはという意気込みがあったから、やはり会員も増えた。このとき随分いろいろな委員会がまた新しくできまして、それぞれの分担というものを決めてやろうということだったと思うのです。それがいろいろな成果を出して、今までつながってきたのですが、鈴木さん、このときの状況を話してください。

鈴木 理事長の強力なリーダーシップというのに、乗っけられたというか（笑い）、あおられたというのでしょうか。いろいろな委員会を作って、それに対して理事会で議題が出る。私も一言多いほうですからどうしても発言してしまう、発言すると最後には「じゃ、やれ」ということになるわけです。（笑い）、工業会を含めていろいろな委員会があって、当時、私と細山さんと宮本さんは、工業会と合わせると1人で、12、13以上の委員会を持っていましたね。月のうち、3分の1以上は赤羽橋に通っているような感じで、本来はその年代では、仕事をどんどん取らなきゃいけないときなのに、なんでこんなに来てるんだろう（笑い）という感じでした。でも、やればやっただけのことが返ってくるという時代背景が良かったと思いますけれども、やりがいはありましたね。

細山 当時、各委員会五つぐらいあるんです。共同委員会、特別委員会、技術委員会、知識集約委員会とかいろいろでした。工業会にも、技術委員会だとかいろいろあるのですが、ほとんど組合兼務ですよ。工業会には金がないし、ほとんど組合が中心になっていました。ほとんど組合がまとめたものが工業会にあがってくる感じでした。宮本さんなんかやはり技術委員会ががんばっていましたね。

鈴木 私は、会社が、赤羽橋からは目と鼻の距離の虎ノ門にあったので、銀行に行くのにちょうど中間で便利だからといわれて財務関係もやらされたりしました。（笑い）、うまく使われてきたなという感じですよ。

上野 確かに時代も良かったし、リーダーが良かった。

鈴木 熊谷理事長は、我々は若手に対して心をくすぐるというか、反発を感じさせるような発言をどんどんされるのです。それで「何を！」というような感じで発言しちゃうんです。それが畏じゃなかったと思うんですけども（笑い）。結果、はめられていました。

上野 人の動かし方が非常にじょうずだった。

鈴木 それがリーダーシップではないかと思うのですけれども。うまく乗っけてくる。

熊谷 私はね、昔から二足のわらじは履かないというのが信条だった。ですから「組合のほうをやれば、工業会はやらない」というふうに決めていました。だから「工業会は皆さんがやり、私が組合をやる」。サンウェーブが出てきた時に、業務用と家庭用をやるとういう考えが会社の中にも出たんです。だけど、二足のわらじははかない。だから家庭用はやらなかったのです。そういう信念ですから、工業会には出なかったんですよ。なんだかんだ言われたって、自分はそういう信念だから。

鈴木 すみません（笑い）。理事長のそういう信念を、私知りませんでした。当時、私は工業会の理事もやり、熊谷さんも工業会の常務理事をされていました。熊谷さんは工業会の理事会に出てこないことが多いのですよ。だから、これはおかしいと、さんざん言ったのです。「消せ！」と（笑い）。

熊谷 みんなから言われたよ。

上野 私は「二足のわらじははかないよ。工業会は皆さんやって下さい。組合は私がやるから」という話は聞いていたのです。そういう熊谷理事長の信念みたいなものを十分承知していました。

深沢 熊谷理事長が当時リーダーシップをとられた9年間。この時期は高度成長のちょうど仕上げの段階で、いい時期であったことは事実なのだけれども、組合の委員会活動が活発に行われ、組合がいちばん活況を呈していたという時期でもありました。

細山 組合員を全部集めて意見を出して、その中で組合の在り方を考えようという「全体会議」というのもありました。

上野 業種別のグループも作った。いろいろなアイデアを出してね。製造部会や設備部会等を作って、その中で工業会のやるべき仕事の下地を全部作ってしまったのです。

深沢 それが今、工業会に生きているわけですね。

細山 技術委員会は、工業会より組合が先に作り、そこで組合標準や組合規格を検討していました。厨房機器の耐震試験も東京ガスさんと共同で行い、その都度、結果を全部工業会に上げていました。

鈴木 あとから工業会で委員会ができると、組合でやっていた我々がそのまま 同じ委員になっちゃうわけです。

上野 当時は、まだ工業会はやるだけの力がありませんでしたから。それらの活動をベースにして、今の工業会があるということです。

8 上野理事長時代

深沢 少し話を先に進めます。熊谷理事長から上野理事長にバトンタッチをされて、共同仕入れや転貸事業のような組合の事業も一つの転換期に来たと思います。それで非常に苦勞されたわけですが、そのへんのお話をしていただきたいと思います。

細山 上野さんのときは大変だったんですよ。バブルがはじけて（笑い）。

上野



まず、転貸事業ですが。それは熊谷理事長の頃に始まっていました。あの頃、我々に厨房業者には力がついていませんから、銀行から金が出るというのは、あまりスムーズにいかなかったのです。そこで、出資金の10倍までを限度として組合が転貸を行うことになりました。

しかし、転貸事業では、理事全員が保証人にならなければいけない。それが一つの原則なのです。理事さんだって、その度に全部保証していたのではたまらないという気持ちもあり、一方では、現実の問題として3年に2社ぐらいのつまづきがあったのです。これでは理事全員の保証というのは難しいから、転貸を続けるために、相保証制度、私が600万円借りる、Aさんが600万円借りる、お互いに保証しようじゃないかというようなことでやったのです。最初のうちは、まあうまく機能したのですが、ちょうど借りたばかりの600万円が、せいぜい2・3回ぐらいしか返済していないのに倒産して、保証した人が全額返済する。それがやはり4、5件続いたので、みんな嫌気がさしてしまいました。それと同時に、金融機関からの融資が割合潤沢になったのです。そのため、利用者がそれとはなしに減って、2社になり3社になり…、それで取りやめました。だけど、転貸事業というのは、組合事業の一つのバックボーンですから、できればそれを続けたいわけだけでも、現実に利用する人がいなければ有名無実になってしまいますね。

それから、共同仕入れですが。それも、熊谷理事長のときから始まっていまし

た。基本は、仕入規模が大きな先と同じ仕入れ金額、もしくは若干でも安い金額を交渉し、そして、組合員が今まで使っている掛け率よりも若干安い金額で仕入れて、組合を利用してもらう。それで得られる2%~3%の利鞘を組合の運営資金に充てようとしたわけです。売る側も組合だったら安心する、ということで、非常にうまく機能したわけです。しかし、だんだん皆さんも力をつけてきたものですから、直接仕入れた方が、安く仕入れが出来るということになって、いつとはなしに利用度合いが少なくなりました。でもやはり、登録してある購入業者以外のところでも欲しいのがあるわけです。そうすると、組合で交渉してもらって購入する。今でもそのように利用され、生きています。

深沢 共同受注はどうでしたか。上野理事長の頃から、共同受注には東京ガスさんが非常に協力的で、5,000万円の受注を受ける等、これが一時期、相当組合利益に貢献したと思うのです。東京ガスさんの保養所を共同受注していますね。

上野 熊谷理事長のときからやってきたことの花が咲いてきたのですよ。それは、やはり熱量変更から東京ガスさんとは親密な関係になりました。我々も、非常に協力的にやりましたから、それに東京ガスさんが応えてくれたのではないのでしょうか。共同受注をさせていただいたら、組合の名前で絶対に保証する、サービスをしますということを強調しましたね。4,000万円、5,000万円という物件もありました。組合員にはだいたい1,000万円を限度にしてそれぞれの業者に分けるわけです。だから3,000万円なら3社ぐらいですね。指名される商品があるとなれば、それはそれで特別に分担してもらおうということで、東京ガスさんは非常に協力してくれました。組合というものを非常に評価してもらっているのではないのでしょうか。最近では東京ガスさんの施設はあまりないみたいで、ちょっと残念ですが。官公需の資格を取って、港区の区役所の厨房や学校給食施設の受注を受けたこともあります。

9 鈴木理事長時代

深沢 そのあと鈴木さんが理事長に就任されました。頭の痛いことがいっぱいあったのでしょうか。

鈴木



上野さんが組合理事長のときに、工業会の理事長に就任するという話がありましたが、上野さんは、両方一緒にはできないと言われて、副理事長だった村田さんが理事長になり、私は副理事長になったわけです。ところが、就任されて二期目の半ばで村田さんが亡くなられて、私が引き受けることになったのです。

私の時代は組合活動が厳しい時代に入ってきたときでした。共同受注と言ったって、世間的には格好いいけれども、結局は東京ガスだ

けしかない。

それから共同仕入れに関しても、物がいっぱいできてきたということもありますし、力が付いてきたということもあるでしょうけれども、その制度を作るときにちょっと配慮が足りなかったなど反省するのは、我々利用するサイドのことを考えてしまって、利用されるメーカーの事情というものはあまりよく配慮していなかったのではないかとということです。

メーカーにとってみれば、従来の方式ならば、各注文会社に「毎度！」と言って1週間に何回か通い、そこで仕事を通じて人間関係ができてくるわけです。それが組合の共同購入の商品になりましたからといって、組合に注文するだけだと、会社訪問がなくなり、人間関係も情報も入ってこないということになったわけです。それで、ある時期からメーカーは原点に戻ったわけです。メーカー同士の競争が非常に厳しくなってきたということもありましたが。それでたくさん買ってくれそうなところに売込をかけたということではないかと思うのです。表向きには組合に言えないでしょうが、「組合と同じ値段でいい、いやそれよりもっと安くしますから、なんとか直接やってください」というようなところがどんどん出てきました。

いろいろ難しい問題はあったけれども、とにかく私が理事長になったときは、やはりやらざるを得ないわけですから、共同購入に関しても、うちの社員に対して組合の扱い商品はもうすべて100%、どんなことがあっても組合側を通して入れろという指示を出しました。しばらくの間、うちは、共同購入ベストテナントトップのランクを維持していました。しばらくして「おかしいな、うちみたいな小さな会社が、どうしてトップにいるんだろう？ もっと大きな会社が上にいなければならないはずなのに」というようなことも考えたりなんかしました。まあ、建前をいくら言ったってしょうがない、時代の流れというものがありますから。少し方向転換していかなければいけない時代にかかってきた、と思いながら動き出したわけです。

10 韓国厨房業界との国際交流

鈴木 韓国厨房協同組合の件ですが。最初は、ファックスが工業会のほうに入ったのです。工業会に、「これから国際協調の時代だということで、日本と韓国の厨房の交流を始めたい。ついでには見学したいので、面倒を見てほしい」というファックスが入った。工業会は、ちょうど上野理事長だったのですけれども、上野さんはちょっとハングルが弱いということと（笑い）、仕事がいろいろあって忙しい。向こうと仕事の面でつながるのは組合のほうが適当ではないかと。それでたまたま、私が、韓国に何回か行っているから「おまえやれ」ということになりました。国際間の問題ですから、やはり礼儀を正して迎えなければいけないという気持ち

でした。10日間、日本に来て、いろいろなことを見学して帰る、その行程は全部私が組んで、それで迎えたわけです。

鈴木 組合の理事さんに集まっていたいて、厨房機器会館で交歓会を開催し、その後、目黒の料理屋に行って食事会をしました。ホテルスの頃ですね。そのときの苦勞話というと、彼らの要望は「日本の外食事情を調べたい。日本の厨房メーカーを見てみたい」ということでした。それで、これはというところに声をかけたのですが、ほとんどのところで断られたというのが現実だったのですよ。「見せてもいいけれども、みんな真似されてしまうから嫌だ」というのが理由でした。「我々だって昔は、アメリカに行って見て真似してきただろう。真似されるなら真似させればいいじゃない、自分たちはそれ以上に進めばいいんだから」と、何か説得しました。

外食産業の厨房施設、協力して頂いた細山さんの工場やタニコーさんのショールームを見学しました。それから、バスを連ねて東海道を下り、私どものやった御殿場のホテルに泊まり、その厨房を見学しました。さらに、アイホーさんの工場を見学し、滋賀の大洋厨房さん、あそこはCADを相当入れていたものからCADの利用状況をそこで見学しました。

その当時、奈良でシルクロード博をやっていたので、博覧会を見て、最後に岡山のサンヨー工場を見て、大阪から帰る。そういうような行程を組んでやったわけです。

非常に喜ばれました。その後、13人ぐらいで答礼を兼ねて向こうに行き、いろいろ交流が広がるわけです。

当時、韓国は厨房組合がありませんでした。金属工業会の中の一部門にシンク部門というのがあって、そこに厨房関係業者が集まっていた。それで、専務理事や理事長に話をして「そういう中にいたのでは発展しないよ。そこから出て組合を作りなさい」というアドバイスして、組合作りの資料等も提供しました。その2年後に組合ができたのです。組合の2代目の専務理事がユンさんという、昔、キムデジュン大統領の第一秘書をやっていた方で、政府とのパイプも太いうえに、韓国厨房の共同受注のシステムを研究されて、韓国での学校給食普及の当初から、国でやる学校給食の施設は全部韓国の厨房組合が共同受注するシステムを作ったのです。全国の学校給食、その後の病院厨房等の設備は全部、組合に発注されるため、組合に入っていないと、その分配に預かれないのですから、韓国の厨房組合は、一時期、強い組合になってしまった。現在は、学校も一巡して仕事がなくなっただけで、組合の力が落ちてきているということも聞いています。

これからは国際化という時代で、やはり国内だけ見ているのではなく、海外にも目をむけながら進めていかなければいけないのではないかなという時代だと考えております。

1 1 細山副理事長の苦勞

深沢 細山副理事長は、組合設立からすべてのことにかかわってこられ、特に運営上の総務、財務、こういったところをずっと見てこられていますが、どんな苦勞がありましたか。

細山



私はうちの会社に36年に入りました。親父が組合、工業会にしょっちゅう出ていて、お供で一緒に来ていましたから、歴代の理事長さんを始め、皆さんのお顔をよく存じ上げています。いちばん苦勞したのは上野さんの時代、河内事務局長が亡くなったときですね。財務については事務局任せでしたからよくわからなかったし、収入はダブルがはじけて落ちているし、あの切替のときに苦勞しました。

鈴木 あのとき覚えていますよ。斉野くんが辞めた後で、河内さん亡くなって、組合にリーダーの役割を果たす人が誰もいなくなってしまった。そのとき、上野さんから、どっかで事務局長を見つけてこいと言われたのですよ。「給料は安い、しかし、仕事は厳しい」と（笑い）。たまたま私の会社のお客さんで、八王子の病院の事務長をやっていた方と親しくなりました。私はカメラが好きですけども、彼も写真が好きで、同じカメラを使っていたから、私の大事にしていたレンズをプレゼントしたのです。それで気をこっちに引きつけて口説き始めたのです（笑い）。

深沢 横山さん？

鈴木 横山さん。それで、給料は現在の半分になります。だけど通勤時間も半分になります（笑い）。やりがいはあると。財務には強い、パソコンもできる、組合の改革をしなければならぬので、ぜひ来てくれと。自宅まで3回くらい通いましたね。おかげで、人も減らせて、機械化を進められました。非常に助けられました。

上野 フィルム1本で口説いたんだ。

鈴木 レンズですよ（笑い）。

1 2 組合の今後をどう考えるか

深沢



組合設立のご苦勞やその後の紆余曲折を経て、今日の組合があるわけですが、先輩方から、今後の組合をこうしなさい、こうしなければ駄目だよというご意見・ご提案を話していただけますか。

熊谷 むしろ、私のほうが聞きたい。これから組合はどうするのかと。

細山 組合の設立事情や背景が、その当時と全然違ってきてしまった難しさはありますね。

鈴木 社会的バックボーンも変わってきている。組合設立当初のいろいろな趣旨、目的は、今ほとんどクリアしてしまっているのではないかと思いますね。組合に頼らなければならないという社会的条件が、もうほとんどなくなってきているというのが現状だと思うのです。だから一段と方向転換していかないと、今のままだとただのサロンになってしまう。技術的な面ではもう工業会のほうがどんどんやっていますからね。すると、地域集団としての組合は何をするべきかということで、知的なもので攻めるとか、あまり好きではないけれども、はやりのIT化だとか。

深沢 組合も、パソコンを使いましてホームページを作るとかいろいろやっている。あと少子高齢だとか、グローバル化というものを言われている。こういうものに組合がどういうふうにかかわっていけるかどうか。

鈴木 上野理事長にしても熊谷相談役にしても、組合で活躍されたのは40代前半ですよ。私も理事として入ってきたのは40代前半なのです。現在、組合に40代前半でバリバリやろうというような、目の輝いている人が、理事にいるかということなのです。そこが問題なのです。もう二十数年やっていて、まだ若手みたいな感じでお役が回ってくるのです。本当は高齢化なのです（笑い）。

上野 熊谷さんがおっしゃるように、「皆さん方どうするのですか、今までこれだけ築いてきたのにどうするのですか」ということに、ぜひこたえられるように、一つの方向付けをしないとね。これでは本当に先細りで、存在の意味がなくなってくる。あなた方ももう私たちの出る歳じゃないよとおっしゃるかもしれないけれど

40周年記念座談会

も、今までの経験を踏まえて、若手にどうやったらバトンタッチできるのかと考
えてもらいたい。

鈴木 工業会もそうだけれども、難しいのは、組合には、部品を作っているところ、メ
ーカーから製造業、工事だけやっているもの、設計と施工をやっているものと、
いろいろあるから、一つでくれないのですよ。

実験的だったのですけれども、去年の厨房機器展示会では、私のところでは全然
違う4社が共同で20コマのブースとったわけですよ。単独だったら4コマなです
が、4コマではたいした見映えもしない。でも大きなブースにすれば、お客さん
もいっぱい来るし、5社でやったら5社のお客さんがみんな共通で来てくれる、
相乗効果が出る、出展経費もずっと安くすむということで、声をかけて、ああ
いうやり方でやってみたのです。そういうのが、組合だったらもっとできるの
ではないでしょうか。組合として50コマとって、中小の組合員は、そこに出てみんな
一緒にやろうという提案だってできるんじゃないのでしょうか。

上野 そういう問題を含めて、ぜひ、これからの方向付けをしてもらいたい。

深沢 30年から40年たっている組合は、設立当時とは社会情勢が変わってきたため、ど
の組合も、どうやって活性化していこうかという同じ悩みを抱えているようです。
当組合でも、理事が中心になり、今後のあり方というものをみんなでディスカッ
ションをして、次なるところを模索していくということが大切だと思います。組
合にあれだけの資産を持たせていただいているということは、大変有難いことで、
それを本当に大事にしながら、何かの形で作っていただいたものを発展させてい
きたいと思っております。また、今後ともご協力をお願いします。ありがとうございました。

株式会社 オリオン
会長 榎本 常治

生業として厨房設備事業を選んで半世紀になる。1918年、第1次世界大戦が終結して、1920年、ジュネーブに国際連盟が成立した。この年に私は誕生した。1923年、関東大震災があり、当時の日本は不況のどん底にあったといわれる。1945年、太平洋戦争に日本は敗れ、私は翌年5月に幸運にも南方の無人島より、栄養失調の体力で復員することが出来た。約2年後、縁あって厨房設備の会社に就職した。当時の東京は焼け野原で、会社での仕事は、米軍施設のメンテナンス工事が主であった。復興に伴い、業界にも数社が設立、米軍指導の学校給食の開始と共に、メーカーも設立され、急速に発展していき専門業種として世間に認められていった。先輩方の努力で1960年に関東厨房機器協同組合が設立された。私は14年の実績を資本に1961年独立開業することが出来た。数年を経て、私の会社も組合員として参加し、やっと一人前の会社になったのである。

組合結成40年を共に元気で迎えられることは感慨深いものがある。20周年の記念誌は創立当時の歴史が詳細に記述されている。30周年記念誌には、港区散歩のマップと各所めぐりの私のスケッチが掲載された。そして40周年記念誌の発行となった。食生活関連の業種である当業界は比較的順調な歩みを続けることが出来た。私も、この仕事が誰よりも好きである。幸運にも多くの著名なユーザー、友人の既知を得ることが出来た。

旅行好きの私は海外旅行にも度々出かける。その時は必ず利用したホテル、レストランのキッチン見学を申込み、他の旅行者よりひとつ余分の愉しみをもつことが出来た。2000年を記念して時差の少ないオーストラリア大陸の太平洋岸の旅に参加した。日本から近いケアンズからパシフィックオリエント急行に乗車、3泊4日の豪華列車は1両4室のコンパートメントでホテル並みの設備であった。20数両編成で定員100名の貸切列車である。途中、バリアリーフ観光では列車を待たせ、広大な世界遺産の奇観を見学、1時間もヘリコプターに搭乗し、珊瑚礁の浮島に飛んで半日滞在する。シーフード、バーベキューのランチ、水中観光船に乗って海底の神秘を探検する。列車のシェフとも顔馴染となり、3日目には施設の全てを見学し、撮影も許された。朝食は希望の時間にルームサービスを受ける。昼、夕食は2交代制で正装して、名産のワインでフルコースの食事をゆっくりする。日本人は我々を含め3組の夫婦のみで、1740キロの旅がブリスベンで終わり全員下車、顔馴染になった老夫婦がわざわざ挨拶にこられたのには恐縮した。

時恰も、都営大江戸線が開通し、我が厨房会館の目の前に駅の出入口が出来た。組合結成40周年記念に一段と花を添えるものである。新世紀を迎え業界が益々発展して、更なる組合の繁栄を願ってやまない。

理事長



上野 理事長

副理事長



細山 副理事長



鈴木 副理事長



深沢 副理事長

理事



小越 理事



尾崎 理事



榎本 理事



梶原 理事



杉本 理事

理事



桧垣 理事
(平成13年3月逝去)



梅本 理事



遠山 理事



二階堂 理事



中川 理事

理事



富士田 理事



村田 理事



柳屋 理事

監事



熊谷俊範 監事



谷口 監事



長宗 監事

相談役



熊谷俊男 相談役

物故された役員

平成3年4月～12年3月（没年順）

氏名	最終役職	所属会社	没年月日	役員在任期間
小越 栄治郎（89歳）	相談役	（有）小越製作所	平成10年12月1日	昭和38年5月～平成10年1月
采沢 賢一（81歳）	理事	クレヴァ電機工業（株）	平成11年11月15日	昭和53年5月～平成11年11月
丹羽 正男（83歳）	理事	東京設備（株）	平成12年7月18日	昭和52年5月～平成12年8月
檜垣 敏也（70歳）	理事	（有）昭和調理器製作所	平成13年3月6日	平成元年5月～平成13年3月

組合運営の歩み

組合員一覽

加入者順、ゴシック体は現組合員

平成12年11月2日現在

秋元調理機器株式会社	三ツ星厨房器具株式会社	暁厨機株式会社
イカリ工業株式会社	リンナイ株式会社	東洋設備工業株式会社
株式会社伊藤厨房	株式会社内山製作所	ミヤコ厨房株式会社
株式会社上野製作所	株式会社東京三冷社	新日本厨機株式会社
オザキ株式会社	日本調理機商事株式会社	株式会社A I H O
株式会社木村製作所	株式会社内田製作所	平井商事株式会社
有限会社佐藤鉄工所	株式会社北川製作所	東京特殊鋼材株式会社
三陽工業有限会社	株式会社遠山製作所	株式会社中西製作所
株式会社鈴木商行	日本ステンレス工業株式会社	株式会社服部製作所
竹村総合設備株式会社	株式会社加藤製作所	大伸工業株式会社
第一厨房工業株式会社	株式会社横山製作所	常金設備工業株式会社
千代田設備工業株式会社	株式会社北山製作所	エレクター株式会社
株式会社椿厨房具製作所	トキワ工業株式会社	服部工業株式会社
東郷厨房機器株式会社	小川製作所	ホンザキ東京株式会社
株式会社東泉製作所	日建設備株式会社	有限会社中村鑄工所
株式会社徳久製作所	熊野商事株式会社	日本洗浄機株式会社
有限会社中村製作所	巽瓦斯器具工業株式会社	株式会社桂精機製作所
永富機械工業株式会社	二葉工業株式会社	有限会社植野製作所
日本調理機株式会社	株式会社松島製作所	有限会社藤村製作所
ヨート一株式会社	井上金属株式会社	株式会社コメットカトウ
林田商事株式会社	東京管材株式会社	株式会社佐藤鉄工所
林工業株式会社	株式会社長岡製作所	有限会社敬和工業
株式会社福本製作所	株式会社 中 里	墨水交易株式会社
株式会社フジマック	クレヴァ電機工業株式会社	株式会社クレヴァ厨設
細山熱器株式会社	桐山工業株式会社	株式会社フジマックサービス
株式会社松崎製作所	株式会社五加調理器	サンウェーブ機材株式会社
株式会社宮本製作所	東京設備株式会社	富士エンゼル株式会社
株式会社 村 幸	大和ステンレス鋼業株式会社	星電商事株式会社
株式会社森井厨機製作所	ダイワ工業株式会社	イトヤ株式会社
八洲電機株式会社	株式会社飯塚鉄工所	株式会社カジワラエンタープライズ
吉村厨房工業株式会社	クマノ厨房工業株式会社	クレヴァサービス株式会社
ワシオ厨理工業株式会社	菊地厨機株式会社	株式会社鷹製作所
高砂厨房工業株式会社	株式会社東栄厨房	シーエム工業株式会社
アサヒ厨機販売株式会社	株式会社イースタン商会	有限会社フジガス工業
株式会社小林製作所	タニコー株式会社	三和厨器株式会社
有限会社小越製作所	株式会社ユニフロー	日調メンテナンス株式会社
株式会社萩原製作所	株式会社オリオン	大進金属工業株式会社
エバホット工業株式会社	清和厨房株式会社	共和厨房設備株式会社
有限会社昭和調理器製作所	アフターサービス設備工業株式会社	ニチワ電機株式会社
株式会社戸井田製作所	三和工業株式会社	株式会社カジワラキッチンサプライ
北英熱器株式会社	長堀車輛製造株式会社	日本キッチン工業株式会社
株式会社松下製作所	日産設備工業株式会社	株式会社共栄サービス
ハマシン株式会社	株式会社三栄コーポレーションミテッド	横河電子機器株式会社

各委員会委員就任状況(平成3/4~13/3設立または解散したもの)

【常設委員会】 ゴジックは委員長

技術委員会(昭和48年2月設立・平成3年解散)

荒木 唯光	阿部 翰	荒井 武司	生島 四郎	采沢 賢一	尾崎 和夫	勝村 三男
川名 克巳	川村 国平	風間 政夫	小山 義治	島田 阿二	新川 善雄	高木 貞安
出川 義則	永井 富造	中村 禎夫	中村 進	野本 新輔	桧垣 敏也	古川 芳昭
藤井 節三	細山喜三郎	宮本 一雄	三ツ沢義治	三沢金一郎	村田 芳郎	村田 精一
山本 和夫						

活路開拓ビジョン調査委員会(平成3年設立・同年解散)

深沢 信生	荒井 武司	榎本 俊夫	風間 政夫	小山 義治	塩田 稔	鈴木 廣之
鈴木 雅之	杉本 孚	中野 功貴	前田 巖雄	三島 昭寿		

組合事業活性化対策委員会(平成5年設立・8年解散)

小越 万栄	小山 義治	塩田 稔	鈴木 雅之	椿 浩司	浜田 博男	山崎 秀夫
-------	-------	------	-------	------	-------	-------

マルチメディア検討委員会(平成9年設立)

小越 万栄	上野 秀雄	中川 幹夫	細山 欣也	三木直太郎	加藤 爾	浜田 博男
-------	-------	-------	-------	-------	------	-------

【特別委員会】

厨房図面集編集委員会(平成2年設立・平成4年解散)

深沢 信生	榎本 俊夫	今野 孝雄	鈴木 廣義
鈴木 尚記	原田 美正	藤村 成人	谷田貝麻吉

40周年記念誌編集委員会(平成12年設立)

上野 一雄	細山喜三郎	鈴木 紘正	深沢 信生
-------	-------	-------	-------

40周年記念式典実行委員会(平成12年設立)

上野 一雄	細山喜三郎	鈴木 紘正	深沢 信生
-------	-------	-------	-------

現存常設委員会就任状況

共同購入委員会(昭和48年10月設立)

— 委員長 = 副委員長 — 委員

氏名	所属	昭和								平成											
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
榎本常治	オリオン	—	—	—																	
深沢信生	三 栄		=	—	—	—	—	—	—												
富士田靖明	星 電									—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
丹羽正男	東 設	=																			
上野一雄	上 野			=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=
稲垣光清	三ツ星						—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
鱈 清	タニコー				—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宇佐美祐繁	東 栄	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小越万栄	小 越								—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
恩沢應公	A I H O		—																		
後藤 博	高 砂	—																			
柴田三雄	日 調	—																			
谷口光男	タニコー		—	—																	
出川義則	日本キッチン		—	—	—																
徳増久治	徳 久	—																			
西山 宏	日 調						—														
馬場将二	同 上			—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
平野 篤	フジマック	—																			
矢野 徹	三ツ星		—	—	—																
遠藤章一	大進金属													—	—	—	—	—	—	—	—
島根正之	日 産													—	—	—	—	—	—	—	—
上野秀雄	上 野													—	—	—	—	—	—	—	—
鍋島 登	日 洗															—	—				

共同受注委員会(昭和41年設立・48再設立)

— 委員長 = 副委員長 — 委員

氏名	所属	昭 和									平 成											
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
二階堂博史	東 洋	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
丹羽正男	東 設			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
桧垣敏也	昭 和	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	=	
江口次男	東 泉	—																				
小越万栄	小 越			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—								
桑野昭治	日 調	—																				
篤田一馬	フジマック	—																				
鈴木紘正	鈴 木	—																				
鈴木雅之	クレダサービス					—	—	—	—	—	—	—	—	—	—							
塚田忠男	A I H O			—																		
出川義則	日本キッチン	—																				
中里貞治	中 里			—																		
深沢信生	三 栄	—																				
村田芳郎	村 幸		—																			
村田良介	同 上			—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
前田巖雄	カジワラ													—	—	—	—	—	—	—	—	
松本安正	アフター													—	—	—	—	—	—	—	—	

マルチメディア委員会(平成9年7月設立)

氏名	所属	昭 和									平 成											
		56	57	58	59	60	61	62	63	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
小越万栄	小 越																		—	—	—	—
上野秀雄	上 野																		—	—	—	—
中川幹夫	日 洗																		—	—	—	—
細山欣也	細 山																		—	—	—	—
三木直太郎	オザキ																		—	—	—	—
加藤 爾	アタカサービス																		—			
浜田博男	ハマシン																		—	—		



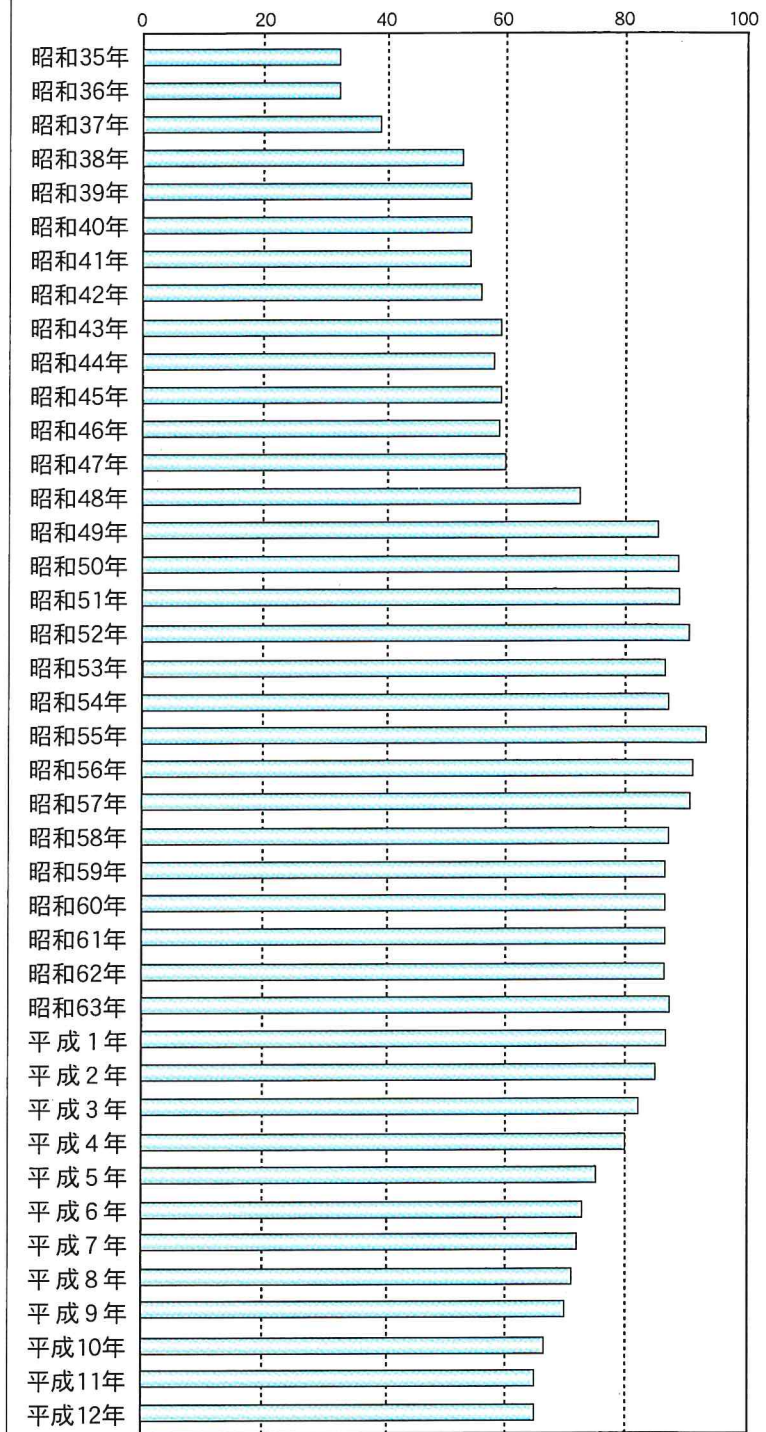
組合事業の歩み

組合員数

組合員数推移

単位:社

年度	社
昭和35年	32
昭和36年	32
昭和37年	39
昭和38年	53
昭和39年	54
昭和40年	54
昭和41年	54
昭和42年	56
昭和43年	59
昭和44年	58
昭和45年	59
昭和46年	59
昭和47年	60
昭和48年	72
昭和49年	85
昭和50年	88
昭和51年	88
昭和52年	90
昭和53年	86
昭和54年	87
昭和55年	93
昭和56年	91
昭和57年	90
昭和58年	87
昭和59年	86
昭和60年	86
昭和61年	86
昭和62年	86
昭和63年	87
平成1年	87
平成2年	85
平成3年	82
平成4年	80
平成5年	75
平成6年	73
平成7年	72
平成8年	71
平成9年	70
平成10年	67
平成11年	65
平成12年	65

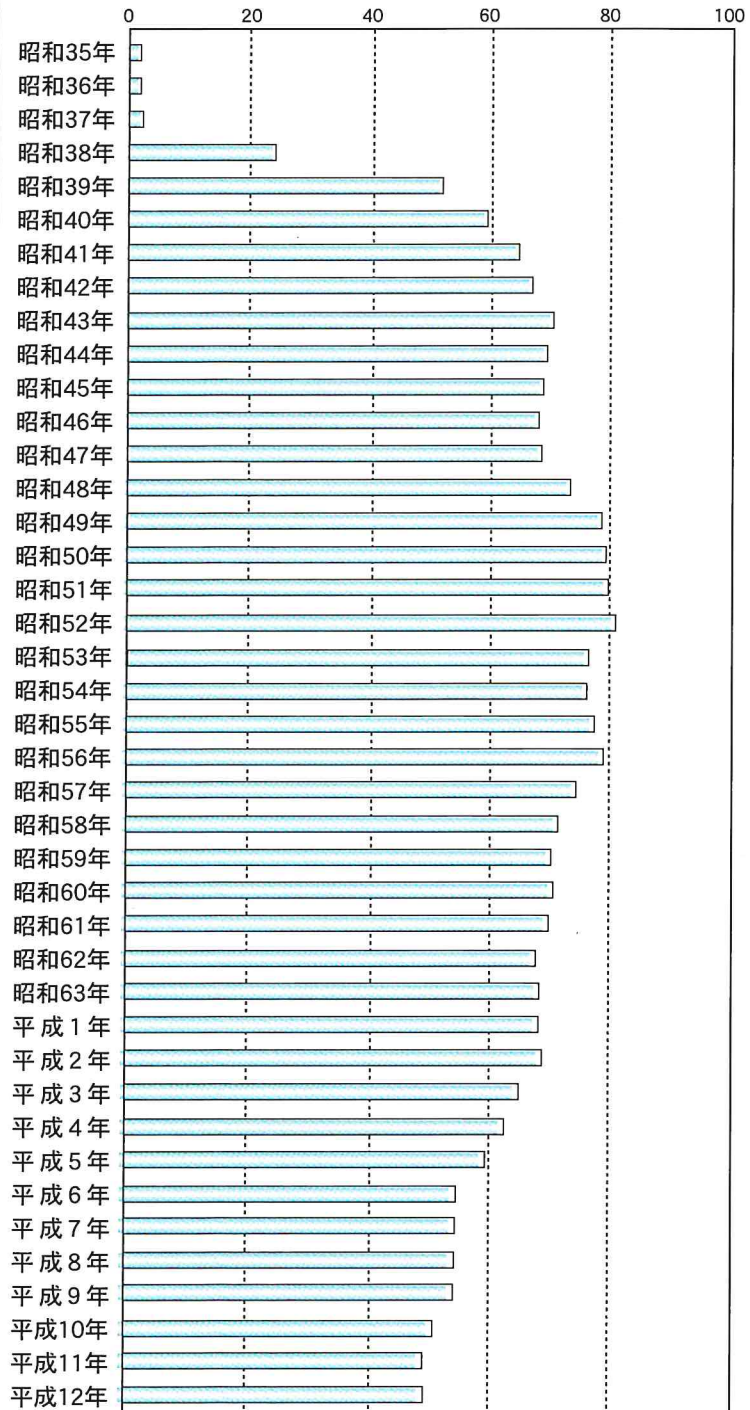


組合出資金

組合出資金推移

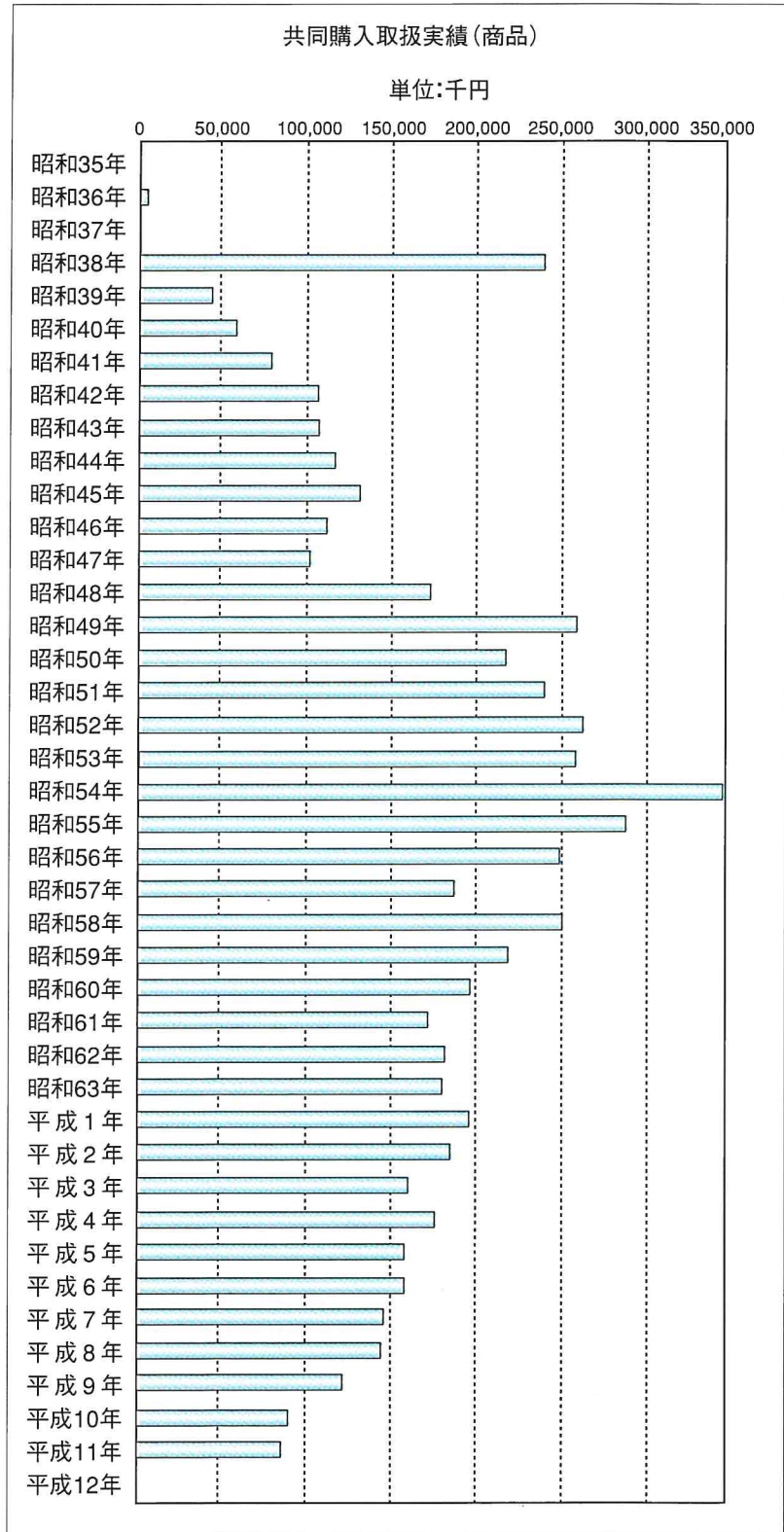
単位:万円

年度	万円
昭和35年	96
昭和36年	96
昭和37年	117
昭和38年	1,208
昭和39年	2,618
昭和40年	2,970
昭和41年	3,240
昭和42年	3,360
昭和43年	3,450
昭和44年	3,480
昭和45年	3,460
昭和46年	3,420
昭和47年	3,440
昭和48年	3,680
昭和49年	3,960
昭和50年	3,980
昭和51年	4,000
昭和52年	4,040
昭和53年	3,830
昭和54年	3,810
昭和55年	3,890
昭和56年	3,960
昭和57年	3,740
昭和58年	3,600
昭和59年	3,540
昭和60年	3,560
昭和61年	3,520
昭和62年	3,420
昭和63年	3,440
平成1年	3,440
平成2年	3,460
平成3年	3,280
平成4年	3,160
平成5年	3,020
平成6年	2,760
平成7年	2,760
平成8年	2,740
平成9年	2,720
平成10年	2,580
平成11年	2,500
平成12年	2,500



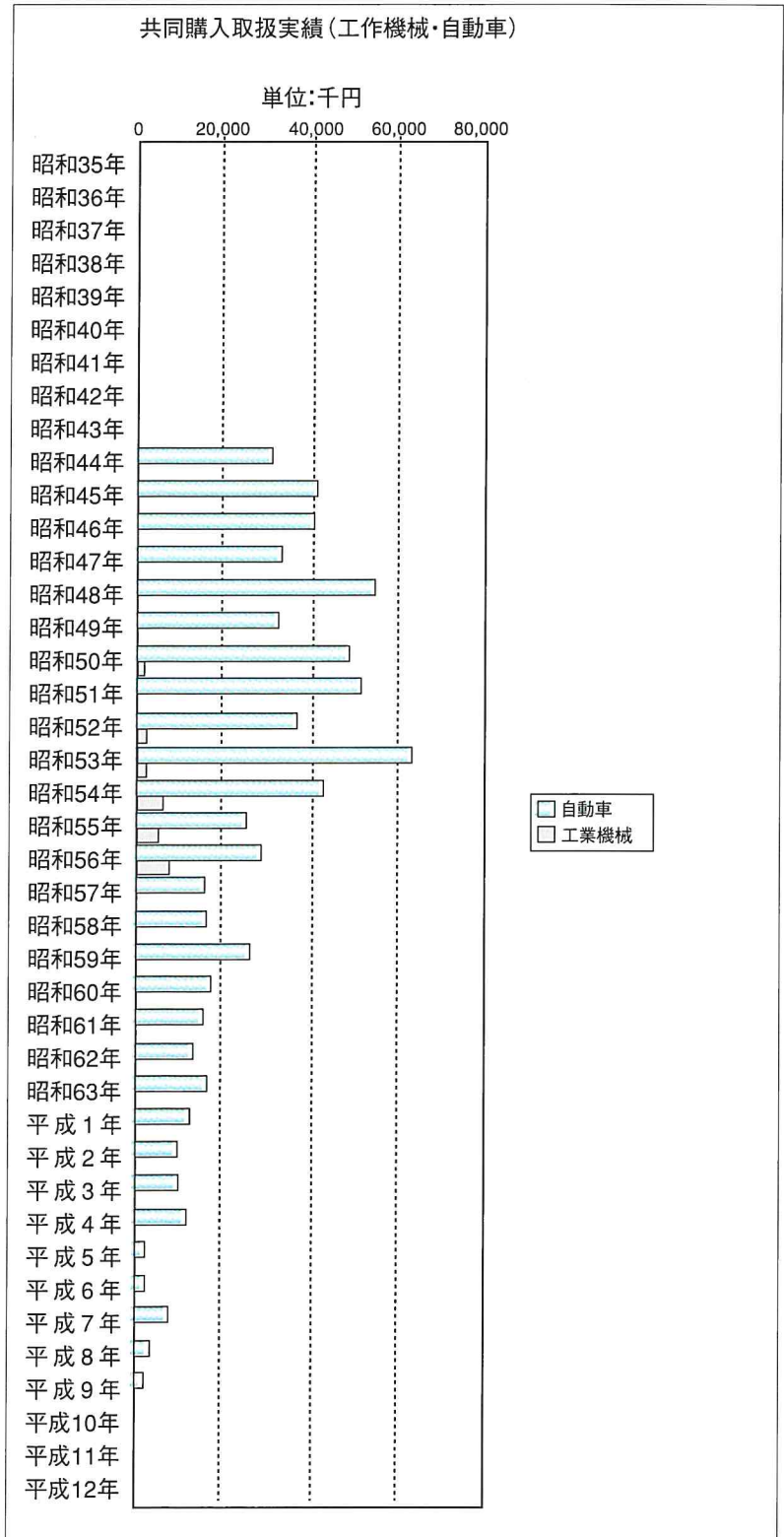
共同購入取扱実績 (商品)

年度	千円
昭和35年	0
昭和36年	1,527
昭和37年	0
昭和38年	238,423
昭和39年	44,498
昭和40年	58,770
昭和41年	80,402
昭和42年	106,244
昭和43年	107,695
昭和44年	116,393
昭和45年	131,754
昭和46年	111,251
昭和47年	101,162
昭和48年	173,421
昭和49年	257,592
昭和50年	216,217
昭和51年	239,490
昭和52年	260,949
昭和53年	258,393
昭和54年	343,410
昭和55年	286,757
昭和56年	249,410
昭和57年	186,251
昭和58年	248,816
昭和59年	217,903
昭和60年	197,776
昭和61年	172,615
昭和62年	184,429
昭和63年	181,082
平成1年	196,262
平成2年	186,049
平成3年	160,726
平成4年	175,275
平成5年	156,621
平成6年	159,021
平成7年	148,491
平成8年	144,311
平成9年	123,342
平成10年	89,932
平成11年	86,728
平成12年	



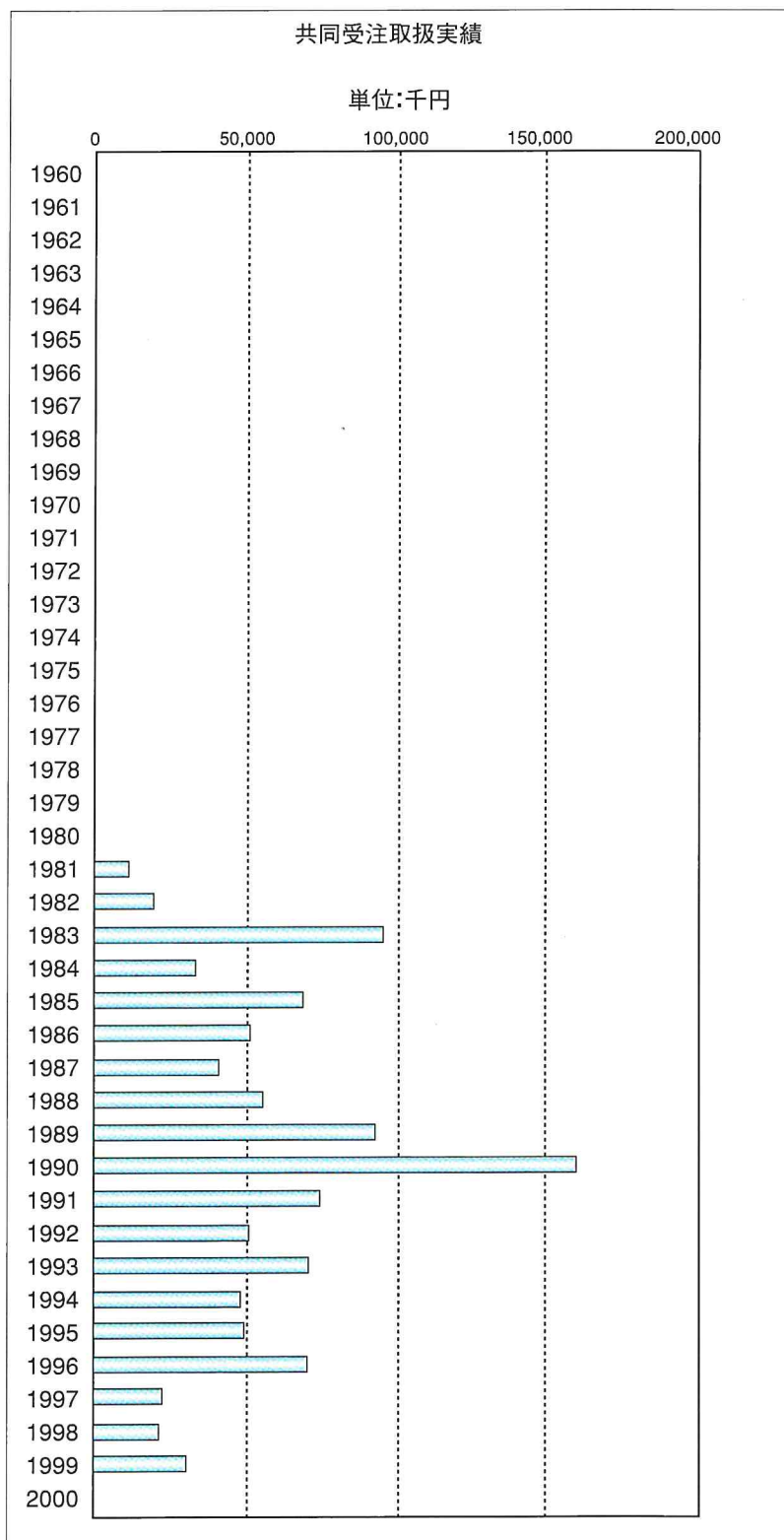
共同購入取扱実績 (工作機器・自動車)

	単位:千円	
	自動車	工作機械
昭和35年		
昭和36年		
昭和37年		
昭和38年		
昭和39年		
昭和40年		
昭和41年		
昭和42年		
昭和43年		
昭和44年	30,892	
昭和45年	40,624	
昭和46年	40,406	
昭和47年	33,652	
昭和48年	54,530	
昭和49年	32,277	
昭和50年	48,416	870
昭和51年	51,372	
昭和52年	36,859	1,600
昭和53年	63,175	1,380
昭和54年	32,860	4,250
昭和55年	25,263	2,150
昭和56年	28,197	6,200
昭和57年	15,063	
昭和58年	16,231	
昭和59年	25,750	
昭和60年	17,022	
昭和61年	14,755	
昭和62年	13,113	
昭和63年	16,067	
平成 1年	12,537	
平成 2年	9,883	
平成 3年	10,222	
平成 4年	11,589	
平成 5年	956	
平成 6年	1,019	
平成 7年	7,023	
平成 8年	2,757	
平成 9年	1,769	
平成10年	50	
平成11年		
平成12年		



共同受注取扱実績

年度	社
昭和35年	
昭和36年	
昭和37年	
昭和38年	
昭和39年	
昭和40年	
昭和41年	
昭和42年	
昭和43年	
昭和44年	
昭和45年	
昭和46年	
昭和47年	
昭和48年	
昭和49年	
昭和50年	
昭和51年	
昭和52年	
昭和53年	
昭和54年	
昭和55年	
昭和56年	9432
昭和57年	18,270
昭和58年	94,594
昭和59年	32,122
昭和60年	68,748
昭和61年	50,777
昭和62年	39,657
昭和63年	53,221
平成1年	92,766
平成2年	158,988
平成3年	73,821
平成4年	49,868
平成5年	70,020
平成6年	47,421
平成7年	47,797
平成8年	69,422
平成9年	21,438
平成10年	19,433
平成11年	28,487
平成12年	



共済制度・保険制度取扱実績

(件数金額)

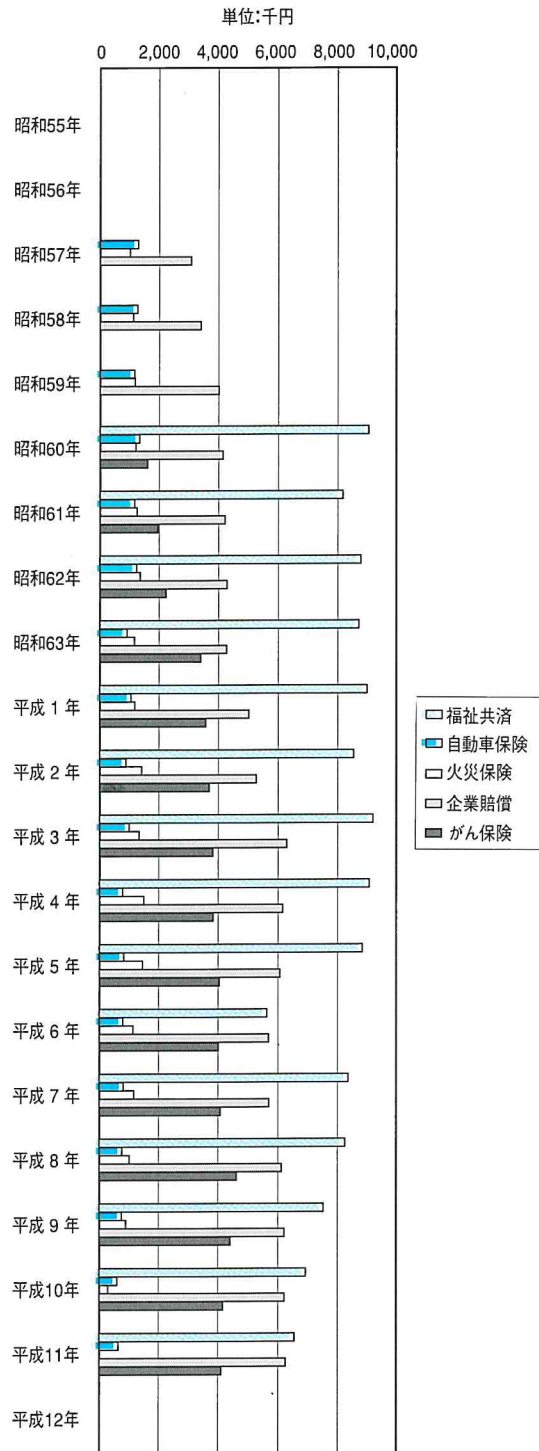
年度	福祉共済		自動車保険		火災保険		企業賠償		がん保険	
	取扱口数	取扱保険料	取扱件数	取扱保険料	取扱件数	取扱保険料	取扱件数	取扱保険料	取扱件数	取扱保険料
昭和55年										
昭和56年	2,397		14		5					
昭和57年	2,344		11	1,322	5	1,021	52	3,080		
昭和58年	2,378		10	1,255	3	1,087	55	3,387	40	
昭和59年	2,167		10	1,215	4	1,213	57	3,995	51	
昭和60年	2,166	9,025	19	1,322	31	1,153	57	4,139	51	1,565
昭和61年	1,929	8,100	17	1,176	33	1,276	56	4,228	72	2,006
昭和62年	1,970	8,881	13	1,197	33	1,299	57	4,311	65	2,231
昭和63年	1,933	8,754	13	930	33	1,182	57	4,298	108	3,360
平成1年	1,921	8,990	8	1,024	19	1,139	58	5,084	118	3,614
平成2年	1,830	8,564	9	838	32	1,380	60	5,259	89	3,700
平成3年	1,979	9,175	9	958	14	1,367	60	6,298	104	3,849
平成4年	2,015	9,126	9	713	22	1,432	59	6,193	108	3,843
平成5年	1,899	8,894	9	796	32	1,323	59	6,093	108	4,133
平成6年	1,893	5,623	11	798	29	1,131	55	5,774	76	3,967
平成7年	1,816	8,388	10	757	28	1,123	56	5,745	116	4,128
平成8年	1,836	8,212	6	665	25	958	58	6,150	77	4,663
平成9年	1,636	7,542	6	668	24	896	57	6,274	72	4,404
平成10年	1,506	7,003	5	636	11	169	55	6,298	99	4,231
平成11年	1,506	6,537	5	636	20	575	55	6,298	99	4,131
平成12年										

共済制度・保険制度取扱実績

(金額単位：千円)

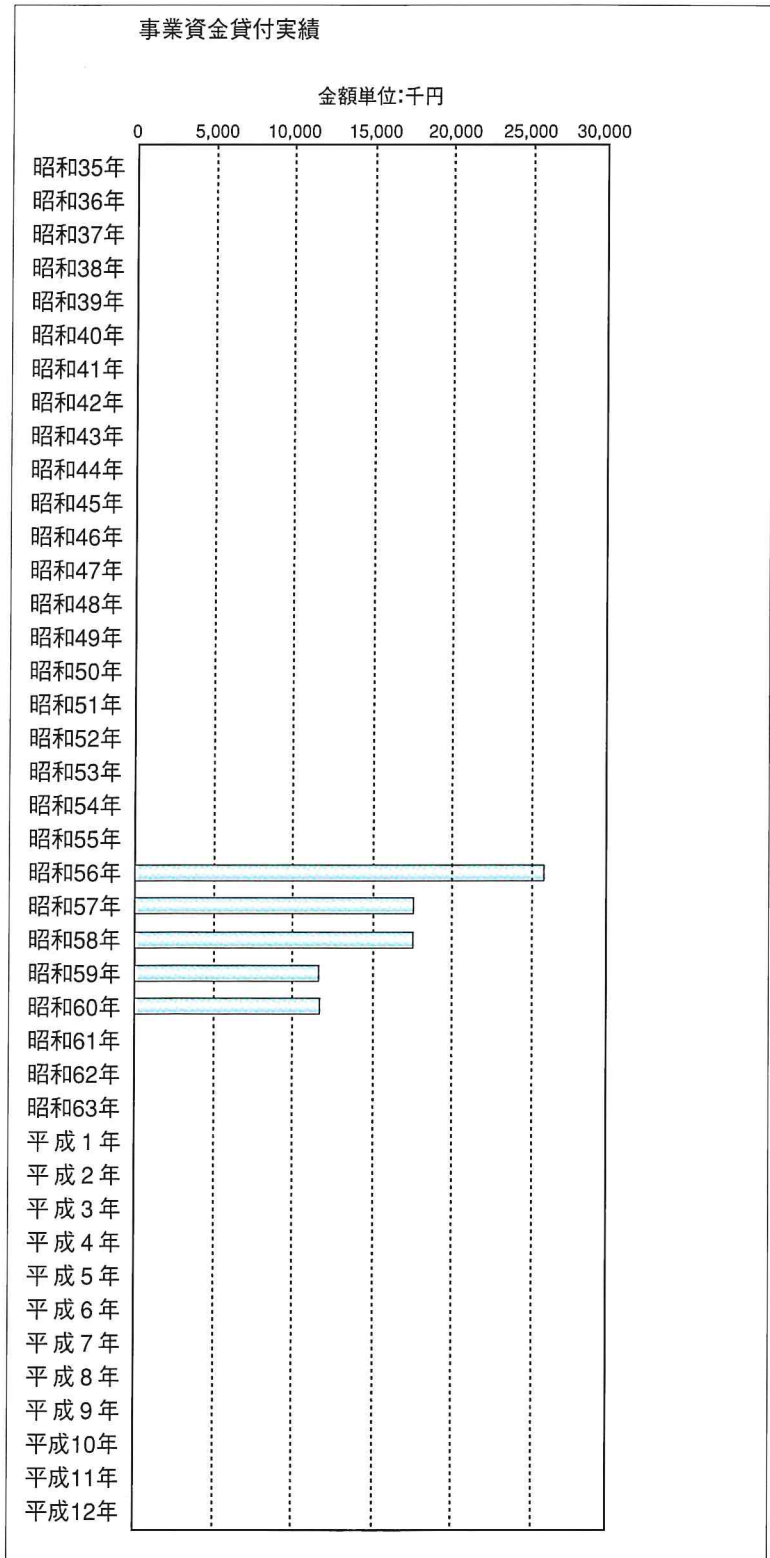
年度	福祉共済	自動車保険	火災保険	企業賠償	がん保険
昭和55年					
昭和56年					
昭和57年		1,322	1,021	3,080	
昭和58年		1,255	1,087	3,387	
昭和59年		1,215	1,213	3,995	
昭和60年	9,025	1,322	1,153	4,139	1,565
昭和61年	8,100	1,176	1,276	4,228	2,006
昭和62年	8,881	1,197	1,299	4,311	2,231
昭和63年	8,754	930	1,182	4,298	3,360
平成 1年	8,990	1,024	1,139	5,084	3,614
平成 2年	8,564	838	1,380	5,259	3,700
平成 3年	9,175	958	1,367	6,298	3,849
平成 4年	9,126	713	1,432	6,193	3,843
平成 5年	8,894	796	1,323	6,093	4,133
平成 6年	5,623	798	1,131	5,774	3,967
平成 7年	8,388	757	1,123	5,745	4,128
平成 8年	8,212	665	958	6,150	4,663
平成 9年	7,542	668	896	6,274	4,404
平成10年	7,003	636	169	6,298	4,231
平成11年	6,537	636	575	6,298	4,131
平成12年					

共済制度・保険制度取扱実績額



事業資金貸付取扱実績

	単位:千円	単位:社
	貸付金額	利用組合員
昭和35年		
昭和36年		
昭和37年		
昭和38年		
昭和39年		
昭和40年		
昭和41年		
昭和42年		
昭和43年		
昭和44年		
昭和45年		
昭和46年		
昭和47年		
昭和48年		
昭和49年		
昭和50年		
昭和51年		
昭和52年		
昭和53年		
昭和54年		
昭和55年		
昭和56年	26,000	5
昭和57年	18,000	3
昭和58年	18,000	3
昭和59年	12,000	3
昭和60年	12,000	2
昭和61年		
昭和62年		
昭和63年		
平成1年		
平成2年		
平成3年		
平成4年		
平成5年		
平成6年		
平成7年		
平成8年		
平成9年		
平成10年		
平成11年		
平成12年		



各種表彰記録 (平成3年4月～平成13年3月)

叙勲、国家褒章、大臣表彰を受けた組合員 (平成3年4月～平成13年3月)

*叙勲 上野 一雄 勲五等双光旭日賞 (平成7年4月)
尾崎 和夫 勲五等瑞宝章 (平成12年4月)

*国家褒章 梶原 徳二 黄綬褒章 (平成4年4月)
鈴木 紘正 黄綬褒章 (平成8年11月)
西山 喜一 藍綬褒章 (平成11年11月)
深澤 信生 黄綬褒章 (平成12年4月)

*大臣表彰 鈴木 紘正 建設大臣表彰 (平成4年7月)

東京都中小企業団体中央会会長表彰

*功労役員 梶原 徳二 (平成5年8月)
長宗 新作 (同 上)
富士田靖明 (同 上)
村田 精一 (平成8年8月)
柳屋 隆 (平成9年8月)
熊谷 俊範 (同 上)
小越 万栄 (平成11年8月)
檜垣 敏也 (同 上)
中川 公明 (同 上)

組合功労者顕彰 (40周年祝記念式典にて顕彰)

*功労役員 30年以上：上野一雄
20年以上：細山喜三郎 鈴木紘正 尾崎和夫 深澤信生
榎本常治 二階堂博史
10年以上：谷口光男 梶原徳二 長宗新作 富士田靖明 村田精一
柳屋 隆 熊谷俊範 小越万栄 檜垣敏也 中川公明

*永年組合員 イカリ工業株式会社 井上金属株式会社 株式会社上野製作所
有限会社小越製作所 オザキ株式会社 株式会社北山製作所
株式会社鈴木商行 東京管材株式会社 株式会社遠山製作所
株式会社徳久製作所 株式会社長岡製作所 株式会社 中里
日本調理機株式会社 株式会社萩原製作所 株式会社フジマック
細山熱器株式会社 株式会社松下製作所 株式会社松島製作所
株式会社 村 幸 クレヴァ電機工業株式会社
有限会社昭和調理器製作所 株式会社椿厨房具製作所
株式会社戸井田製作所 日調メンテナンス株式会社
三ツ星厨房器具株式会社

最近の厨房業界概要

1. 沿革

厨房機器製造・設備業は、西洋料理が初めて日本に紹介された明治20年代、アメリカから、厨房機器を取次・納入したことが起源とされる。国内生産は、石炭、粉炭、重油を使用するストーブを製作していた、当時のいわゆる鑄掛け屋・ブリキ屋が、外国製レンジを真似て、その名も新しい料理用石炭ストーブを製作したのがきっかけと言われ、その後、大正時代半ばには、ホテルや高級西洋料理店に出入りする板金技術をもった施工業者が、特注の什器、容器、あるいは、鑄造の石炭レンジを製作、昭和10年頃には輸入品を模して、主に食器洗浄器、皮むき器、ケーキミキサー等の厨房機器の生産を始めたともいわれている。

厨房機器産業が本格的な業種として発展したのは戦後である。駐留軍施設などの需要とともに復活し、さらに昭和29年の学校給食法の制定により小学校を中心とした堅実な需要が発生し、学校給食を中心とした業者も生まれてきた。また、これと並行して工場給食、病院給食、営業飲食店などの需要も徐々に増え、この時期には製品別あるいは需要先別にテリトリーがある程度定着してきた。

昭和30年頃には、溶接技術の進歩によるアルゴン溶接が導入され、25年頃から採用されたステンレス鋼板と相まって、品質は向上した。

30年代以降ガスの供給量が増加するに伴い、熱調理機器としてガス機器が普及した。そして、39年の東京オリンピックを契機としたホテルやビルの建設ラッシュ、レジャーブームを反映した外食産業の進展、各種産業給食設備の普及により量的にも急速に成長した。

さらに昭和40年代に入ると、冷凍食品の出現、外資系ファーストフードの進出、そしてこれに刺激を受けた外食産業の積極的な展開が続いて、48年のオイルショックで多少の低迷はしたものの、比較的安定した状態で成長を続けてきた。

この傾向は、近年まで30兆円産業といわれる外食産業の伸びとともに比較的堅調に推移し、また、松下電器、東芝などの大手家電メーカーやクリナップ、サンウェーブ工業などの家庭用厨房機器メーカーも参入している。

2. 概況

一. 業者数

当業界に含まれる企業は、業務用厨房機器の製造から設備工事まで多岐にわたっており、日本標準産業分類のなかでも単一業種として特定できない。社団法人 日本厨房工業会の会員数は454社にのぼっている。(別表1参照)

二. 事業者の規模

a. 次の製品・業種の特性により、小回りのきくことが有利な中小企業の割合が高い(従業員50人以下の企業割合、約81%、年商10億円未満の企業は、全体の77%)(別表2および別表3参照)

①調理の多様性に加え、需要先が多岐にわたっていることから厨房機器の製品種類は非常に多い。(別表4参照)

②厨房設備の能力、用途、ユーザーの要望により、規格、寸法、形状および能力がまちまちなため、大量生産や見込生産に向く製品機種はごく限られ、このため多品種・少量生産による受注生産の割合が高い

- b. 大企業としては、松下電器、三洋電機等の参入組、これ以外の厨房機器専門企業では、日本調理機、フジマック、北沢産業など数社にしかすぎない。

三. 営業形態

業務は、設計、製造（設備または、道具・部品）、施工、保守・修理などに分けられる。一部には専門企業も存在するが、多くの企業は複数の業務を兼ねつつ、厨房設備工事の施工業務を行っており、また、全製品の内製化をせず、製品仕入を併用し、自社製品も同業者へ販売することも多い。

a. 分類

当業界を企業の業態から分けると次のように大別される。

(一)総合厨房業

ホテルや給食などの大型設備を対象とし、設計、製造、施工、保守・修理と総合的に営業しているタイプ。フジマックと日本調理機がこの代表的企業である。

(二)厨房機器製造業

厨房機器の特定機種 of 製造に主力をおき自社の主力製品ブランド、技術力、製品開発力で勝負するタイプ。板金加工等で単一機種を製造している企業から複数機種を製造している企業まである。「ガスレンジ」「湯沸器・ボイラー」「炊飯器」等で特定機種に強みを持ち、長年培ってきた技術力を保有する企業もある。

(三)製造・設備業

自社製品と他社からの製品を組み合わせて設備施工を行う業者で、業者の大半がこれに該当する

(四)設備・保守・修理業

他の製造業者または販売業者から各種厨房機器を購入してユーザーの要望に併せて設備を行うまたは保守・修理が中心となるタイプ。ほとんどの小規模企業はこれに属するが、地元ユーザー密着型で根強い力をもっている。

b. 地域的分布

主要ユーザーである外食産業は大都市圏に集中し、また、需要先に対するアフターサービス、修理が不可欠であるため、地域的には東京、大阪、名古屋に70%が集中し、大都市に集中する都市型企業が多い。（別表2参照）

c. 受注までのルート

ユーザーの発注経路としては、ユーザーが厨房業者へ直接発注する場合と、建築業者等の仲介業者を経て発注する場合がある。

*ファーストフーズチェーンの場合は、ほとんど厨房業者への直接発注

*学校給食の場合、建築業者が建物全体を一括して受注し、厨房部分を厨房業者に外注する場合と、発注者が厨房スペースを分離発注する場合とがある。

*ホテル等の場合、建築業者が仲介することが多いものの、最近では厨房スペースを有

効活用することの重要性が高まったこと（専門性の高まり）、発注者側のコスト低減意識が一層の高まったこと、等により厨房業者への分離発注が増加している。

3. 需給動向

一. 需要分野

業務用厨房機器の需要先は、多岐にわたっているが、営業施設と非営業施設とに大別される。（別表5参照）

営業施設とは、主に外食産業が対象であり、料理店、一般食堂、喫茶店のほかホテル、仕出屋などが含まれる。

非営業施設とは、学校給食、病院、会社食堂等のほか料理学校、白衛隊なども含まれる。

a. 営業施設

外食産業の市場規模は、所得の上昇基調が続いてきたこと、女性の家事時間の減少および核家族化等に伴いライフスタイルが変化してきたこと等により、堅調な拡大を続けており、平成9年の市場規模は約30兆円とみられている。

（別表6参照）

近年の需要を部門別にみると、飲食店については、ファミリーレストランなどの需要に支えられ堅調に増加している。旅館・ホテル等の宿泊施設では、ほぼ横ばいで推移しており、喫茶店・酒場等の料飲主体部門は、バブル崩壊以降の落ち込みが大きく、最近も依然低調に推移している。

一方、ユーザー需要の多様化も進んでおり、特に、省力化、省エネ化、安全性の確保に対する要請は強まっている。今後については、レジャー志向・余暇の拡大による外食比率のいっそうの高まりが期待されている。

b. 非営業施設

集団給食の施設数は7万件程度で、近年でも大幅な変動はないものとみられる。また、学校給食の普及度もほぼ100%に近く、設備は一巡しており、会社食堂も横ばいであるが、病院・児童福祉施設の給食施設は、引き続き有望な市場と思われる。

二. 生産・出荷動向

業務用厨房機器製造・設備業の生産・出荷額の詳細は不明であるが、推定では、業界の総売上高は約1兆円とみられている。

一方、生産動向については、厨房機器の材料には耐食性や食品衛生などの関係から、特にステンレス材が多く使用されるため、ステンレス鋼板の業務用厨房機器向け受注量より、その動向を判断する機会が多い（別表7参照）。ステンレス鋼板の業務用厨房向け受注量は、昭和62年以降順調に増加を続け、バブル崩壊後の平成4、5年は一時的に前年を割り込んだが、外食産業市場の規模拡大を背景として、6年からは再び増加に転じている。また、8、9年については O-157対応による需要拡大もあったものと考えられる。しかしながら、10年については、外食産業の設備投資抑制意識の高まりや、前



年までの反動減もあり、一転して大幅な受注量減少に転じている。

外食産業市場の堅調な拡大により、厨房機器需要も堅調に推移してきたが、外食産業の設備投資意欲に陰りがみえはじめているなかで、厨房業者を取り巻く環境は厳しいものがある。

●別表 1
地区別業種別会員数（社団法人 日本厨房工業会）

業種 \ 地区	製 造	製造・販売 設計・施工	販 売 設計・施工	販 売	ガス・電気供給 その他	合 計
関 東	21	100	40	19	12	192
北 海 道	4	8	4	2	1	19
東 北	4	11	17	4		36
東 海 北 陸	5	25	15	3	5	53
関 西	15	30	20	4	4	73
中 国	3	7	13		1	24
四 国	3	2	7	1	1	14
九 州	2	18	20	3	1	43
合 計	57	201	136	36	24	454

●別表 2
就業者別企業数

就業者・地区	北海道	東北	関東	東海北陸	関西	中国	四国	九州	合計	%
1～9	4	9	57	14	10	3	2	12	111	38.9
10～19	1	3	27	8	8	2	2	6	57	20.0
20～49	1	1	36	9	14	2		1	64	22.5
50～99	1		12	5	4	1			23	8.1
100～199			3	1	3			1	8	2.8
200～499	1	1	5	4	3	1		2	16	5.6
500～			5	1					6	2.1
合 計	8	13	145	42	42	9	4	22	285	100
構成比	2.8	4.6	50.9	14.7	14.7	3.2	1.4	7.7	100	

「業務用厨房機器に関する実態調査」（1999年版）：社団法人日本厨房工業会

●別表 3
売上高別業種別企業数

総売上高	1999年				
	機器単品販売	厨房設備を伴う機器販売	他の厨房設備	全体	構成比(%)
1億円未満	40	23	20	43	15.0
1～2億円未満	49	40	39	54	18.9
2～5億円未満	69	51	50	70	24.5
5～10億円未満	52	36	38	54	18.9
10～20億円未満	23	13	15	23	8.0
20～50億円未満	21	12	14	21	7.3
50～100億円未満	8	7	9	10	3.5
100億円以上	10	8	7	11	3.8
合 計	272	190	192	286	100

「業務用厨房機器に関する実態調査」（1999年版）：社団法人日本厨房工業会

●別紙 4

業務用厨房機器分類

品目名	定義、働き及び細目
熱調理機器類	Cooking Appliance 食品の加熱調理を目的として使用される熱器具
411 レンジ	Range 一般に調理加熱する個所を複数設けた多目的熱器具
4111 レンジ	上部にこんろや熱板を有し、下部に蒸し焼き可能なオープン具备了熱器具 ガスレンジ、電気レンジ、オイルレンジ、オープントップレンジ等
4112 テーブルレンジ	上部にこんろや熱板を有し下部にオープンがない熱器具 ガステーブル、ガス台、台付レンジ
4113 ローレンジ	寸胴銅等を置いて使用する背の低い熱器具 スープレンジ、寸胴レンジ等
4114 卓上レンジ	こんろや熱板を有する置台型の熱器具 ガスコンロ、コンロ等
4115 中華レンジ	中華料理専用の熱器具 中華かまど、いためレンジ、ギョウザレンジ等
4119 その他のレンジ	ガス七輪、どんぶりレンジ、釜めしレンジ等
412 煮炊釜	Cooking Cattle 煮炊き用釜（なべ）に加熱装置を設けた器具
4121 回転釜（固定釜）	釜（なべ）が傾斜回転できる構造の熱器具 ガス回転釜、煮炊釜、蒸気釜
4123 スチームケトル	釜（なべ）が固定された構造の熱器具 平釜 高圧蒸気により煮炊きする二重釜構造の熱器具 スープケトル、クッキングケトル
4124 ティルティングパン	平底鍋が傾斜回転できる構造の熱器具 プレージングパン
4129 その他の煮炊釜	レオニーダー、回転式イタメ機、オートミックスボイル、 攪拌機付煮炊釜
413 炊飯器	Rice Cooker 専用銅を用いて炊飯する熱器具
4131 立体炊飯器	専用銅を用いて炊飯する多段式床置型の熱器具 炊飯器、自動炊飯器、 蒸気炊飯器、ライスクッカー
4132 小型炊飯器(6ℓ以上)	専用銅を用いて炊飯する小型置台型の熱器具 炊飯器、炊飯ジャー
4133 連続炊飯装置	炊飯又は炊飯工程を連続して行う装置 連続炊飯機、送米機、浸漬洗米器、 連続洗米充填機
4139 その他炊飯関連機器	電気びつ、電気ジャー、保温びつ、ライスウォーマー、洗米器、 水圧洗米器、ドラフト式洗米器、乾式洗米器、ライスタンク、納米庫、 反転機、粥調理器、ほぐし機、自動盛付機、計量装置付納米庫、 送米コンベアー
414 焼物器	Roaster (Griller) 焼物調理専用の熱器具
4141 プロイラ	食肉等を直火（放射熱）で網焼きする熱器具 チャコールプロイラ コンベアープロイラ、コンベアーオープン、ロータリープロイラ等
小型焼物器	魚などを直火、放射熱で焦げ目を付けて焼く熱器具
大型(連続)焼物器	焼き室内で放射熱と対流熱とで食材を焼く熱器具 ローストオープン、デッキオープン、回転式オープン等
4144 スチームコンベクションオープン	
4145 サラマンダ	上火の放射熱で料理の表面に焦げ目を付ける目的の熱器具
4146 コンベクションオープン	焼室内に高温熱気を強制対流させ多量の蒸焼をする熱器具
4147 ピザオープン	ピザパイを焼く目的の熱器具
4148 グリドル	熱板上で油焼きやいため焼きするための熱器具 ホットプレート
4149 その他の焼物器類	焼とり器、串焼器、鴨焼器、スモークマシン、鉄板焼器、お好み焼器、 陶板焼器

415	揚物器	Fryer	揚物専用の熱器具
4151	卓上フライヤ		食用油を加熱して揚げものをする熱器具 電子フライヤ、圧力フライヤ
4152	連続フライヤ		オートリフトフライヤ、連続フライヤ
416	蒸し器	Steamer	水蒸気により蒸し調理、蒸し加工をする熱器具
416	蒸し器		
416	蒸し庫		
4169	その他の蒸し器類		
417	麺類機器	Noodle Appliance	麺類の調理または製造用の機器
4171	そば釜		日本そばを茹で、ゆがく目的で使用される器具
4172	うどん釜		うどんを茹で、ゆがく目的で使用される器具
4173	麺ゆで器		麺類を専用に茹で、ゆがく目的で使用される器具 パスタクッカー、ラーメン釜、スパゲティー釜等
4179	その他麺類機器(連続を含む)		
419	その他の熱調理器		
下調理用機器(電気・ガス含む)		Cooking Appliance	食品の下処理や調理に使用される機器
421	球根皮むき機	Vegetable Peeler	食品の皮むきをする機械 じゃがいも等の球根野菜を水洗いし皮むきする機械、ピーラー、球根皮むき機
4219	その他の皮むき機(万能)		
422	切さい機	Cutting Chopping & Slicing Machine	食品を所定の形状に切さい加工する機械
4221	野菜切さい機		切り刃やアタッチメントを変えることにより各種形状に切さいする機械 合成調理機、卓上調理機、さいの目切り機、千切り機
4222	フードカッタ		回転する浅いボウル内でB型刃物を高速回転させて野菜や肉等をみじん切りにする機械 ミジン切り機
4223	ミートチョップ		食肉等を細かく挽く機械 ミンチ、チョップ
4224	スライサ		食品を一定厚に薄切りする機械 フードスライサ、パンハムスライサ、ミートスライサ
4225	ミートソー		帯状のこ刃により冷凍肉や骨付肉等を切断する機械
4226	テングライザ		食肉の筋切りをする機械
4227	カッターミキサ(フードプロセッサ)		各種食品のみじん切り、混合練合せやドウの練り合わせをする機械
4229	その他の切さい機		フレンチフライカッター、リング切り機
423	攪拌混合機	Mixing&Grinding Machine	食品の攪拌、混合、練り合わせを行う多目的機械
4231	フードミキサ		各種食品の攪拌、混合、練り合わせを行う多目的機械
4232	ケーキミキサ		洋菓子等の製造に使用される材料の攪拌、混合、練り合わせをする機械
4233	ドウミキサ		パンの生地を製造を目的として使用される機械
4239	その他の攪拌混合機		ブレンダー、ミルクミキサー、雷かい機、高速度ミキサー
424	食品成型機類	Molding Machine	材料を一定の形状にする機械 製麺機、ドーナツマシン パスタマシン、ギョウザモルダ、コロケ成型機、ハンバーグ成型機
429	その他の調理用機器		

低温機器類

5631 冷凍・冷蔵庫類	Refregerator & Freezer 冷凍機または冷却装置を具えた機器
5631 冷凍・冷蔵庫	Refregerator & Freezer 冷凍機または冷却装置を具えた貯蔵庫（室） 冷蔵庫は10℃以下、冷凍庫は-18℃以下で、冷凍冷蔵庫は冷蔵と冷凍部分とを区画して、食品を冷却保存するリーチンタイプの貯蔵庫 冷蔵庫、冷凍庫、保冷库、氷冷蔵庫、急速冷凍庫、解凍庫、急速冷結庫、チルド保冷库、特殊保冷库
5631 コールドテーブル	冷蔵庫の機能と作業台の機能とが組み合わされている器具 ドロワーテーブル、コールドベース、コールドバン サンドイッチレーブル、マーブルテーブル
5631 プレハブ冷凍冷蔵室(坪数)	食品を冷蔵または冷凍保存するウォークインタイプの食品貯蔵室 冷蔵室、冷凍室、プレハブ冷蔵室、プレハブ冷凍室
5631 その他冷凍冷蔵機器	
563 サービス用低温機器	配膳サービスに使用される冷却装置を具えた機器
5632 冷凍・冷蔵ショーケース	庫内食品が外部から見えるようにした冷蔵・冷凍庫
563312 ボトルクーラ	容器入りの飲料等を、冷水または冷気で冷却するサービス用貯蔵機器
5631 アイスクリームストッカ	アイスクリームを低温貯蔵する機器
56333 ソフトクリームフリーザ	ソフトクリームを製造する機械
56331 ウォータークーラ	飲料水を冷却するサービス用機器
563 その他のサービス用低温機器	スラッシュマシン、シェークマシン、ホイップマシン、清水機、ウォーターステーション
5634 製氷器	Ice Machine 調理や配膳サービス、飲料等に使用する氷を製造する機械 アイスマシン、アイスメーカー、清水製氷機、キューブアイスメーカー ブロックアイスメーカー、フレークアイスメーカー、チップアイスメーカー
563 その他の低温機器類	アイスクリームフリーザー、パステライザー、冷却水槽さらし槽、冷水機、冷塩水機

洗浄消毒機器類

441 食器洗浄機	Washer 食器や容器、用具等の洗浄・消毒に使用する機器 Dish Washer 飲食に用いる各種形状の食器を洗浄する機械で、一般には洗浄場をポンプで加圧し、食器に圧力噴射を繰り返して洗浄、すすぎする構造の汎用洗浄機
4411 アンダーカウンター洗浄機	台下型の小型洗浄機
4412 ドアタイプ洗浄機	洗浄ラックを使用する扉付洗浄機
4413 ラックコンベアー洗浄機	洗浄ラックを自動送りして連続処理する洗浄機
4414 フライトコンベアー洗浄機	たて爪を持ったコンベアーを用いて連続処理する形態の洗浄機
4415 フラットコンベアー洗浄機	すのこ状のコンベアーを用いて連続処理する形態の洗浄機
4416 ラウンドタイプ洗浄機	コンベアーが水平循環して連続処理するシステムをもった洗浄機
4419	その他の食器洗浄機 ブラシ付食器洗浄機
442 特殊洗浄機	Special Dish Washer 汎用の食器洗浄機を除く、特定用途、形態の洗浄機
4421 食缶洗浄機	調理や配食等に使用する食缶、バット、ポット等の容器を洗浄する目的で使用される機器
4422 キャベジカン洗浄機	厨芥容器（キャベジカン）専用の洗浄機
4423 かき揚げ式洗浄機	自動かき揚げ装置を具え浸漬槽と洗浄機とを連結した機械

4424	グラス洗浄機	グラス専用の洗浄機
4425	超音波洗浄機 野菜洗浄機 トレー洗浄機	洗浄槽に超音波動子を取付けた洗浄機
4429	その他の特殊洗浄機	スプーン・フォーク洗浄機、野菜洗浄機、弁当箱洗浄機、コンテナ洗浄機
443	消毒機器	調理や配食に使用する食品や容器・用具等を消毒する機器
4431	食器消毒保管庫	庫内に熱気を対流させ収容した食器を加熱消毒し、かつそのままの状態乾燥保管する収納庫
83115	昇降式消毒保管庫	
4433	包丁まな板殺菌庫	殺菌灯を内蔵して包丁やまな板を消毒する目的で使用する収納器具 まな板殺菌庫、包丁殺菌庫
4439	その他の消毒機器	
449	その他の洗浄消毒器	シャワーシンク、プレリンスユニット、洗剤ディスペンサー、シャワースプレーユニット、リンス剤ディスペンサー、マイタロスプレー、高圧洗浄機、シルバーバニッシャー、スプーンポリッシャー
板金製品類		
	Dreser	板金加工によって製作された器具
83115	台	Working Table 調理配膳作業等に用いる台状の器具
83113	シンク	Sink 食器や器具等の水洗いに用いる水槽を持った器具
8302	戸棚	Cabinet 器物・食品等を収納する目的の扉付器具
8303	ラック	Rack 板、すのこ又はパイプ等を用いた開放式の棚
481	ワゴン（搬送車）	Wagon 特定された目的で使用される、種々の機能を具えた運搬車 配膳車、収膳車、冷温配膳車、ホットワゴン、コールドワゴン、カート、L型運搬車
83	その他の板金製品	トレースライド、スライドテーブル、掃除用具入れ、オーダークリッパー
サーブス機器類		
	Serving Appliance	配膳サービスを目的として使用される機器
461	料理保温器	Food Warmer 料理を保温しておく目的で使用する熱器具
4611	スチームテーブル	甲板下部の槽内にホテルパン等を落とし込み配食前の食品を湯煎する熱器具 湯煎
4612	ウォーマ	甲板下部の槽内にホテルパン等を落とし込み配食前の食品を乾熱保温する熱器具 スチームテーブル、ウォーマーテーブル
4613	ベンマリー	槽を加熱して容器に入れた配膳前の食品を湯煎する熱器具 湯煎
4614	温蔵庫	食品を保温し、かつ菌の繁殖を防ぐための恒温高湿装置を具えたキャビネット、熱蔵庫、ホットキャビネット
4615	ロールウォーマ	ロールパン等の保温を目的とした熱器具
4619	その他の料理保温器	パンズウォーマー、温蔵ショーケース、ホットフードテーブル
462	器具保温器	Warmer 食器や容器・用具等を加熱保管する熱器具
4621	ウォーミングテーブル	台下に食器等を加温して収納する加熱装置付の戸棚を備えた熱器具 ウォーマーテーブル
4622	ウォーミングキャビネット	戸棚に食器等を加温して収納する加熱装置付の配膳用熱器具 ウォーマーキャビネット

4629	その他の器具保温器	
463	その他の保温器	Miscellaneous Warmer
4631	タオルウォーマ	サービス用タオルを加熱または加熱消毒するための熱器具 タオル蒸し器
4632	酒かん器	酒をお燗するための熱器具 かんどうこ
4639	その他の保温器	カップウォーマー
464	コーヒー関連機器	Coffee Serving Machine コーヒーのサービスに使用される機器
4641	コーヒーメーカー	圧力またはドリップ方式でコーヒーを抽出する熱器具 コーヒーマシン、コーヒーサーバー、コーヒーブルワー、エスプレッソマシン
4649	その他のコーヒー関連機器	コーヒーウォーマー
465	飲用ディスペンサ	貯蔵した飲料を随時取り出し易くしたサービス用機器
4651	アイスディスペンサ	チップアイスを製造・貯蔵して取り出し易くした機器
4652	ジュースディスペンサ	ジュース類を貯蔵し、冷却・攪拌等の機能を具えて取り出し易くした機器
4653	コーラディスペンサ	シロップタンクと炭酸ボンベ・カーボネーター並びに冷却装置を具えて炭酸の発生を容易にした機器
4654	スープディスペンサ	スープを貯蔵し、保温して取り出し易くした機器
4655	ビールディスペンサ	冷却装置を具えまたは炭酸ボンベに連結してビールを取り出し易くした機器 生ビールサーバ
4656	ティーサーバ	自動装置又は貯蔵保温式により主として日本茶を作り取り出し易くした機器 給茶機
466	ディスペンサ	ホットドリンクディスペンサ、アイスコーヒーディスペンサ、ミルクディスペンサ、耐ハイディスペンサ、アイスティーディスペンサ、お湯割ディスペンサ、ワインディスペンサ、味噌汁ディスペンサ、トレイディスペンサ、ディッシュディスペンサ、カップディスペンサ、ラックディスペンサー
469	その他のサービス機器	浄水器、カーボネーター、アイスピン
給湯関連機器類		Water Heater
471	瞬間湯沸器	適時に所定温度の湯を瞬間連続供給する加熱器
472	貯蔵湯沸器	所定温度の呑み湯を加熱貯蔵する器具 壁掛式・置台式湯沸器
473	給湯ボイラー	大量の湯を加熱貯蔵する大型の湯沸器 温水ボイラー、温水機、貯湯湯沸器
479	その他の給湯関連機器	蒸気ボイラー、蒸気発生機、シスターン
その他の業務用厨房装置類		
491	厨芥処理機	厨芥を破棄または焼却しやすい形状に処理する機器または装置
4911	ディスポーザ	厨芥を細かく破碎して処理しやすくする機械
4912	コンパクト	厨芥や空き缶・ダンボール等を圧縮処理する機械
4919	その他の厨芥処理機	
492	防災防虫機器・装置	厨房内の衛生保全や火災その他災害防止を目的として設備される機器及び装置
4921	グリス除去装置	厨房内で発生・排出される油脂等を捕捉除去する目的の設備装置 グリスフィルター、グリスエレクトラクター、グリストラップ
499	他に分類されない業務用厨房装置	

●別表5
業務用厨房機器需要先

目的	大別	施設名	種 別
料理	日本料理店	料亭	
		かつぼう	
		小料理店	
		専門店	そば・すし・うなぎ・すき焼・てんぷら・おでん・焼鳥・おにぎり・かまめし・鳥料理・魚料理、その他
	西洋料理店	レストラン	
		グリル	
		大衆専門店	スナック・カフェテリア・カレー・スパゲッティ・豚かつ、その他
	中華料理店	中華専門店	広東・北京
		大衆専門店	中華そば、その他
	特定国料理店	専門店	朝鮮・インドネシア・インド・ジンギスカン、その他
食事	一般食堂	大衆食堂	
		百貨店	
		一ぜんめし屋	鉄道・港湾・空港
		構内食堂	映画館・劇場・競技場
		娯楽場	公園・動物園・遊覧地・レジャーセンター
		遊園地	プール・スケート場・ボウリング場・ゴルフ場・スポーツクラブ
嗜好食	喫茶軽食店	和風喫茶店	しるこ屋・みつまめ屋・和菓子屋・お好み焼屋、その他
		洋風喫茶店	コーヒー店・フルーツバーラー・ケーキ店、その他
	飲酒店	大衆酒場	酒場・酒蔵・ビヤホール・バー
		風俗営業店	カフェ・サロンキャバレー・ナイトクラブ
必然食	宿泊所	市街地旅館	普通・団体・かつぼう
		観光地旅館	温泉・海浜・山
		都市ホテル	コマーシャル・レジデンシャル・ターミナル
		観光ホテル	(リゾート) 海浜・山・温泉
		その他	モーテル
会場	会館・式場	宴会場・結婚式場	
その他	弁当仕出屋	料理仕出屋	
		弁当仕出屋	
		機内食会社	
	移動営業店	列車食堂	
		船舶食堂	
		航空機	
その他	露店・自動車・模擬店・仮設店		
厚生福祉	団体産業給食	官公庁食堂	
		学生食堂	
		会社食堂	
		工場給食	
	団体厚生施設	寄宿舎寮	
		厚生保養室	ユースホステル・会館・海の家・国民宿舎
		共同炊事場	給食センター
	保険治療給食	仮設宿泊所	(飯場)
		学校給食	単独校・給食センター
		病院	総合・内科・外科・産科、その他
	集団生活	福祉施設	老人福祉・児童福祉など
		きょう正施設	刑務所・少年院など
		自衛隊・その他	
その他	宗教団体		
	料理学校	学校・料理調理学校・ホテル学校・研究所	
	自動車	調理栄養指導車・食品などの宣伝車	

「業務用厨房機器に関する実態調査」(1999年版)：社団法人日本厨房工業会

●別表6

外食産業市場規模の推移

(金額単位：億円)

	1995	1996	1997	1998
	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
外食産業計	280,986	286,502	291,106	288,585
給食主体部門	214,374	218,586	222,999	221,388
営業給食	173,107	179,247	183,167	181,469
飲食店	122,753	128,995	134,406	134,815
食堂・レストラン	88,129	93,062	97,332	97,014
そば・うどん	9,847	10,507	10,856	11,260
すし店	15,138	15,156	15,455	15,375
その他の飲食店	9,639	10,270	10,763	11,166
特殊タイプ飲食	2,501	2,526	2,589	2,592
宿泊施設	47,853	47,826	46,172	44,062
集団給食	41,267	39,239	39,832	39,919
学校	5,017	4,960	4,957	4,890
事務所	21,358	21,699	21,838	21,746
対面給食	14,466	14,782	14,960	14,899
弁当給食	6,892	6,917	6,878	6,847
病院	13,114	10,779	11,105	11,294
社会福祉施設	1,778	1,801	1,932	1,989
飲食主体部門	66,612	67,916	68,107	67,197
喫茶店・ビアホール等	27,623	28,044	28,399	27,929
喫茶店	13,577	13,680	14,094	13,782
酒場・ビアホール	14,046	14,364	14,305	14,147
料亭・バー等	38,989	39,872	39,708	39,268
料亭	4,660	4,766	4,746	4,694
バー・キャバレー・ナイトクラブ	34,329	32,106	34,962	34,574

「外食産業統計資料集」(1999年版)：財団法人外食産業総合調査研究センター

●別表7

業務用厨房機器用ステンレス鋼板受注実績

(数量：単価トン)

年月	受注量	前年比		年月	受注量	前年比		年月	受注量	前年比	
		数量	比率(%)			数量	比率(%)			数量	比率(%)
H11.1	2,953	-752	-20.3	H10.1	3,705	-274	-6.9	H9.1	3,979	786	24.6
2	3,190	-347	-9.8	2	3,537	-1,090	-23.6	2	4,627	622	15.5
3	3,121	-439	-12.3	3	3,560	486	15.8	3	3,074	-637	-17.1
4	2,833	-71	-2.4	4	2,904	-498	-14.6	4	3,402	-1,123	-24.3
5	3,211	179	5.9	5	3,032	-1,411	-31.8	5	4,443	602	15.7
6	3,414	305	9.8	6	3,109	-1,074	-25.7	6	4,183	401	10.6
7	2,952	14	0.5	7	2,938	-1,038	-26.1	7	3,976	26	0.7
8	2,927	-135	-4.4	8	3,062	-685	-18.3	8	3,747	127	3.5
9	3,471	403	13.1	9	3,068	-922	-23.1	9	3,990	-338	-7.8
10	2,877	-48	-1.6	10	2,925	-1,329	-31.2	10	4,254	273	6.9
11	2,818	-317	-10.1	11	3,135	-859	-21.5	11	3,994	636	18.9
12	2,682	-180	-6.3	12	2,862	-1,543	-35.0	12	4,405	1,301	41.9

(ステンレス協会資料より)

当組合が誕生して、満40周年を迎えました。私共は、昭和56年3月に「20周年記念誌」、平成3年11月に「30周年記念誌」を発行いたしました。小誌は、それら二誌の記録を踏まえて、平成3年4月以降12年3月迄（31周年から40周年）の歩みを纏めたものです。

組合発起人のお一人である熊谷相談役を交えて、40年を回顧する座談会を開きましたが、組合運営に携わった多くの先輩、同輩、関係先の方々、皆さんが元気の頃の姿が彷彿として眼に浮かび、感慨を新たに致しました。

思えば、長くもあり、あっという間の10年でもありました。

現在、我々を取り巻く環境は厳しいものがあり、諸先輩が知恵を絞り、心血を注いで築き上げたこの組合を如何に継承し、発展させていくのかに行けばよいのか、なかなか難しい時代にいます。

「組合とは何か、その存在意義は、協業・協同とは何か」原点に立ち返って、英知を集め、明日の「関厨」を築かなければなりません。

少数人体制の事務局、制約された時間のなかでの制作・編集となり、十分な出来とは言えず申し訳なく思っております。

内容については、できるだけ正確を期しましたが、不備な点が多々あるかと存じます。ご高覧のうえ、ご感想を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、制作・編集にあたりましてご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

(編集委員長 上野 一雄 平成13年3月)

(編集委員)

上野一雄 細山喜三郎 鈴木絃正 深澤信生

事務局

長友邦夫 (事務局長・経理・総務)

土田信幸 (共同受注)

山内俊治 (共同購入)

組合創立40周年記念誌

発行日 平成13年3月

発行 関東厨房機器協同組合 40周年記念誌編集委員会
東京都港区東麻布1-27-8 厨房機器会館
TEL: 03-3582-0801 FAX: 03-3582-5905